

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	ガッコウホジツンメイセイケン 学校法人 明星学苑							
フリガナ大学の名称	イキメイセイイブク いわき明星大学 (Iwaki Meisei University)							
大学本部の位置	福島県いわき市中央台飯野5丁目5番地1							
大学の目的	<p>本学は教育基本法並びに学校教育法の定めるところに従い、建学の精神に則り、学術を中心として、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力の展開により人間形成に努め、国家、社会に貢献し得る有能な人材を育成すると共に人類の発展に寄与することを目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>(教養学部地域教養学科の目的) 教養学部は、地域社会が求める人材を養成する学部として、現行の人文学部の3学科（表現文化学科、現代社会学科、心理学科）を基礎として改組転換し、全人教育の視点に立って、専門教育に裏づけられた確かな「基礎学力」をもち、他者とのコミュニケーション能力や困難を乗り越える忍耐力を備え、自ら主体的に考え行動できる社会人・職業人となるために必要な「社会人基礎力」と「汎用的技能」を身につけた、これからの地域社会を支える「地域基盤型職業人」を養成することを目的とする。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	教養学部 [Faculty of Liberal Arts]	4	200	—	800	学士(教養)	平成27年4月 第1年次	福島県いわき市中央台 飯野5丁目5番地1
	地域教養学科 [Department of Regional Liberal Arts]							
	計		200	—	800			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p><u>人文学部（廃止）</u> <u>表現文化学科（△90）</u> <u>現代社会学科（△95）</u> <u>心理学科（△90）</u> ※平成27年4月学生募集停止</p> <p><u>科学技術学部（廃止）</u> <u>科学技術学科（△130）</u> ※平成27年4月学生募集停止</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実習	計			
	教養学部 地域教養学科	171科目	53科目	12科目	236科目	124単位		

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員	
			教授	准教授	講師	助教	計		
新設分	教養学部 地域教養学科		人 20 (20)	人 17 (17)	人 0 (0)	人 3 (3)	人 40 (40)	人 0 (0)	人 19 (11)
	計		20 (20)	17 (17)	0 (0)	3 (3)	40 (40)	0 (0)	19 (11)
既設分	薬学部 薬学科		人 18 (18)	人 8 (8)	人 3 (3)	人 4 (4)	人 33 (33)	人 1 (1)	人 10 (10)
	計		18 (18)	8 (8)	3 (3)	4 (4)	33 (33)	1 (1)	10 (10)
合計			38 (38)	25 (25)	3 (3)	7 (7)	73 (73)	1 (1)	29 (21)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		人 31 (31)		人 18 (18)		人 49 (49)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		2 (2)		0 (0)		2 (2)		
	その他の職員		2 (2)		0 (0)		2 (2)		
計			35 (35)		18 (18)		53 (53)		
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	98,950㎡	0㎡		0㎡		98,950㎡		
	運動場用地	53,000㎡	0㎡		0㎡		53,000㎡		
	小計	151,950㎡	0㎡		0㎡		151,950㎡		
	その他	265,909㎡	0㎡		0㎡		265,909㎡		
合計		417,859㎡	0㎡		0㎡		417,859㎡		
校舎	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計			
	41,861㎡ (41,861㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		41,861㎡ (41,861㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設			
	38室	27室	136室	2室 (補助職員 2人)		1室 (補助職員 1人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数				
		教養学部 地域教養学科			43室			届出学部全体	
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書：39,806冊 〔2,879冊〕 学術雑誌：129種 〔24種〕	
	教養学部 地域教養学科	114,100〔25,355〕 (102,590〔22,567〕)	423〔160〕 (413〔150〕)	24〔24〕 (20〔20〕)	2,665〔239〕 (2,661〔235〕)	837 (765)	— (—)		
	計	114,100〔25,355〕 (102,590〔22,567〕)	423〔160〕 (413〔150〕)	24〔24〕 (20〔20〕)	2,665〔239〕 (2,661〔235〕)	837 (765)	— (—)		
図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数			大学全体	
	4,917㎡		434席		287,000冊				
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	4,513㎡		陸上競技場1面、野球場1面、テニスコート10面						

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費等は大学全体 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。 設備購入費は大学全体
		教員1人当り研究費等		154千円	154千円	154千円	154千円	—	—	
		共同研究費等		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	—	—	
		図書購入費	7,428千円	10,910千円	7,800千円	8,550千円	8,720千円	—	—	
		設備購入費	94,706千円	59,220千円	30,103千円	22,104千円	11,642千円	—	—	
	学生1人当り納付金	学部	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	手数料収入、資産運用収入及び私立大学等経常経費補助金等	
		教養学部	1,150千円	1,050千円	1,050千円	1,050千円	—千円	—千円		
		薬学部	2,200千円	1,800千円	1,800千円	1,800千円	1,800千円	1,800千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要									
	既設大学等の状況	大学の名称	いわき明星大学							
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	平成22年4月より学生募集停止(電子情報学科・システムデザイン工学科・生命環境学科) 平成23年4月より入学定員変更(薬学科150→90)
(学部)		年	人	年次	人		倍		福島県いわき市中央台飯野5丁目5番地1	
科学技術学部							0.46			
科学技術学科		4	130	—	520	学士(工学)	0.46	平成22年度		
電子情報学科		4	—	—	—	学士(工学)		平成17年度		
システムデザイン工学科		4	—	—	—	学士(工学)		平成17年度		
生命環境学科		4	—	—	—	学士(理工学)		平成17年度		
人文学部							0.55		平成17年度	
表現文化学科		4	90	—	360	学士(文学)	0.46	平成17年度		
現代社会学科		4	95	—	380	学士(社会学)	0.40	昭和62年度		
心理学科		4	90	—	360	学士(心理学)	0.78	平成13年度	平成23年4月より入学定員変更(薬学科150→90)	
薬学部							0.54			
薬学科		6	90	—	660	学士(薬学)	0.54	平成19年度		
(大学院)									平成23年4月より入学定員変更(薬学科150→90)	
理工学研究科						0.35				
(修士課程)										
物質理学専攻	2	7	—	14	修士(物質理学)	0.35	平成4年度			
物理工学専攻	2	7	—	14	修士(物理工学)	0.35	平成4年度			
(博士課程)						0.00				
物質理工学専攻	3	2	—	6	博士(理工学)	0.00	平成6年度			
人文学研究科						0.14				
(修士課程)										
日本文学専攻	2	5	—	10	修士(日本文学)	0.00	平成4年度			
英米文学専攻	2	5	—	10	修士(英米文学)	0.00	平成7年度			
社会学専攻	2	5	—	10	修士(社会学)	0.10	平成4年度			
臨床心理学専攻	2	10	—	20	修士(臨床心理学)	0.30	平成17年度			
(博士課程)						0.00				
日本文学専攻	3	2	—	6	博士(日本文学)	0.00	平成6年度			

既設大学等の状況	大学の名称		明星大学						所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
	(学部) 理工学部	年	人	年次	人		倍		東京都日野市程久保2丁目1番地1
	総合理工学科	4	400	—	1,600	学士(理学) 学士(工学)	1.04	平成22年度	
	物理学科	4	—	—	—	学士(理学)	—	昭和39年度	平成22年4月より 学生募集停止
	化学科	4	—	—	—	学士(理学)	—	昭和39年度	(物理学科・化学科・機械 システム工学科・電気電 子システム工学科・建築 学科・環境システム学科)
	機械システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成17年度	
	電気電子システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成17年度	
	建築学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成17年度	
	環境システム学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成17年度	平成17年4月より 学生募集停止
	機械工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和39年度	(機械工学科・電気工学 科)
	電気工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和39年度	
	人文学部						1.09		
	国際コミュニケーション学科	4	100	—	400	学士(国際コ ミュニケーション学)	1.16	平成17年度	平成22年4月より 入学定員変更 (国際コミュニケーション学科140 →100、人間社会学科140→80)
	人間社会学科	4	80	—	320	学士(社会学)	1.10	昭和40年度	
	心理学科	4	110	—	440	学士(心理学)	1.09	平成22年度	
	日本文化学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.07	平成22年度	
	福祉実践学科	4	60	—	240	学士 (社会福祉学)	1.00	平成22年度	
	心理・教育学科	4	—	—	—	学士(心理学) 学士(教育学)	—	昭和40年度	平成22年4月より学生募集停 止(心理・教育学科)
	経済学部						1.07		
	経済学科	4	300	—	1,160	学士(経済学)	1.07	平成13年度	平成24年4月より 入学定員変更(経済学科 280→300)
	経営学科	4	—	—	—	学士(経営学)	—	平成17年度	平成24年4月より 学生募集停止(経営学科)
	情報学部						1.00		
	情報学科	4	140	—	650	学士(情報)	1.00	平成17年度	平成26年4月より 入学定員変更(情報学科 170→140)
	日本文学部								
	言語文化学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成4年度	平成22年4月より 学生募集停止(日本文学 部言語文化学科)
	造形芸術学部								東京都青梅市長淵 2丁目590
	造形芸術学科	4	—	—	—	学士(芸術)	—	平成17年度	平成26年4月より学生募 集停止(造形芸術学部造 形芸術学科)
	教育学部						1.22		東京都日野市程久 保2丁目1番地1
	教育学科	4	320	—	1,280	学士(教育学)	1.22	平成22年度	
	経営学部						1.01		
	経営学科	4	200	—	600	学士(教育学)	1.01	平成24年度	
	デザイン学部						1.04		
	デザイン学科	4	120	—	120	学士(デザイン学)	1.04	平成26年度	
	(通信教育部) 教育学部						0.03		
	教育学科(通信課程)	4	2,000	—	8,000	学士(教育学)	0.03	平成22年度	
	人文学部						—		
	心理・教育学科 (通信課程)	4	—	—	—	学士(教育学)	—	昭和42年度	平成22年4月より 学生募集停止 (人文学部心理・教育学 科(通信課程))

いわき明星大学 組織の移行表

平成26年度

●いわき明星大学

学部等	学科等	入学定員	収容定員
科学技術学部	科学技術学科	130	520

人文学部	表現文化学科	90	360
	現代社会学科	95	380
	心理学科	90	360
	小 計	275	1,100

薬学部	薬学科	90	540
-----	-----	----	-----

合計		495	2,160
----	--	-----	-------

平成27年度

●いわき明星大学

学部等	学科等	入学定員	収容定員	変更の事由
		0	0	平成27年4月 学生募集停止

		0	0	平成27年4月 学生募集停止
		0	0	
		0	0	
	小 計	0	0	

教養学部	地域教養学科	200	800	学部の新設 (届出)
-------------	---------------	------------	------------	------------

薬学部	薬学科	90	540	
-----	-----	----	-----	--

合計		290	1,340	
----	--	------------	--------------	--

●いわき明星大学大学院

・修士課程

理工学研究科	物質理学専攻	14	28
	物理工学専攻	14	28
	小 計	28	56

人文学研究科	日本文学専攻	10	20
	英米文学専攻	10	20
	社会学専攻	10	20
	臨床心理学専攻	20	40
	小 計	50	100

合計(修士課程)		78	156
----------	--	----	-----

・博士課程

理工学研究科	物質理工学専攻	6	18
--------	---------	---	----

人文学研究科	日本文学専攻	6	18
--------	--------	---	----

合計(博士課程)		12	36
----------	--	----	----

●いわき明星大学大学院

・修士課程

理工学研究科	物質理学専攻	14	28	
	物理工学専攻	14	28	
	小 計	28	56	

人文学研究科	日本文学専攻	10	20	
	英米文学専攻	10	20	
	社会学専攻	10	20	
	臨床心理学専攻	20	40	
	小 計	50	100	

合計(修士課程)		78	156	
----------	--	----	-----	--

・博士課程

理工学研究科	物質理工学専攻	6	18	
--------	---------	---	----	--

人文学研究科	日本文学専攻	6	18	
--------	--------	---	----	--

合計(博士課程)		12	36	
----------	--	----	----	--

明星大学 組織の移行表

平成26年度

●明星大学
・通学課程

学部等	学科等	入学定員	取容定員	変更の事由
理工学部	物理学系	400	1,600	
	生命科学・化学系			
	機械工学系			
	電気電子工学系			
	建築学系			
	環境・生態学系			
	小計	400	1,600	
人文学部	国際コミュニケーション学科	100	400	
	人間社会学科	80	320	
	心理学科	110	440	
	日本文化学科	100	400	
	福祉実践学科	60	240	
	小計	450	1,800	
教育学部	教育学科	320	1,280	
経済学部	経済学科	300	1,200	
経営学部	経営学科	200	800	
情報学部	情報学科	140	560	
デザイン学部	デザイン学科	120	480	学部の設置(届出)
通学課程 合計		1,930	7,720	

・通信教育課程

教育学部	教育学科	2,000	8,000	
------	------	-------	-------	--

●明星大学大学院

・通学課程(博士前期課程)

理工学研究科	物理学専攻	10	20	
	化学専攻	10	20	
	機械工学専攻	10	20	
	電気工学専攻	10	20	
	建築・建設工学専攻	5	10	
	環境システム学専攻	5	10	
	小計	50	100	
人文学研究科	英米文学専攻	10	20	
	社会学専攻	10	20	
	心理学専攻	10	20	
	小計	30	60	
情報学研究科	情報学専攻	7	14	
経済学研究科	応用経済学専攻	10	20	
教育学研究科	教育学専攻	10	20	研究科の設置(届出)
通学課程(博士前期課程) 合計		107	214	

・通学課程(博士後期課程)

理工学研究科	物理学専攻	5	15	
	化学専攻	5	15	
	機械工学専攻	5	15	
	電気工学専攻	5	15	
	建築・建設工学専攻	3	9	
	環境システム学専攻	2	6	
	小計	25	75	
人文学研究科	英米文学専攻	3	9	
	社会学専攻	3	9	
	心理学専攻	3	9	
	小計	9	27	
情報学研究科	情報学専攻	3	9	
教育学研究科	教育学専攻	3	9	
通学課程(博士後期課程) 合計		40	120	

・通信教育課程(博士前期課程)

教育学研究科	教育学専攻	30	60	
--------	-------	----	----	--

・通信教育課程(博士後期課程)

教育学研究科	教育学専攻	3	9	
--------	-------	---	---	--

平成27年度

●明星大学
・通学課程

学部等	学科等	入学定員	取容定員	変更の事由
理工学部	物理学系	400	1,600	
	生命科学・化学系			
	機械工学系			
	電気電子工学系			
	建築学系			
	環境・生態学系			
	小計	400	1,600	
人文学部	国際コミュニケーション学科	100	400	
	人間社会学科	80	320	
	心理学科	110	440	
	日本文化学科	100	400	
	福祉実践学科	60	240	
	小計	450	1,800	
教育学部	教育学科	320	1,280	
経済学部	経済学科	300	1,200	
経営学部	経営学科	200	800	
情報学部	情報学科	140	560	
デザイン学部	デザイン学科	120	480	
通学課程 合計		1,930	7,720	

・通信教育課程

教育学部	教育学科	2,000	8,000	
------	------	-------	-------	--

●明星大学大学院

・通学課程(博士前期課程)

理工学研究科	物理学専攻	10	20	
	化学専攻	10	20	
	機械工学専攻	10	20	
	電気工学専攻	10	20	
	建築・建設工学専攻	5	10	
	環境システム学専攻	5	10	
	小計	50	100	
人文学研究科	英米文学専攻	10	20	
	社会学専攻	10	20	
	心理学専攻	10	20	
	小計	30	60	
情報学研究科	情報学専攻	7	14	
経済学研究科	応用経済学専攻	10	20	
教育学研究科	教育学専攻	10	20	
通学課程(博士前期課程) 合計		107	214	

・通学課程(博士後期課程)

理工学研究科	物理学専攻	5	15	
	化学専攻	5	15	
	機械工学専攻	5	15	
	電気工学専攻	5	15	
	建築・建設工学専攻	3	9	
	環境システム学専攻	2	6	
	小計	25	75	
人文学研究科	英米文学専攻	3	9	
	社会学専攻	3	9	
	心理学専攻	3	9	
	小計	9	27	
情報学研究科	情報学専攻	3	9	
教育学研究科	教育学専攻	3	9	
通学課程(博士後期課程) 合計		40	120	

・通信教育課程(博士前期課程)

教育学研究科	教育学専攻	30	60	
--------	-------	----	----	--

・通信教育課程(博士後期課程)

教育学研究科	教育学専攻	3	9	
--------	-------	---	---	--

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行 終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
人文学部 表現文化学科 (廃止)	学士 (文学)	文学関係	教養学部地域教養学科	10	6	教養学部 地域教養学科	学士 (教養)	文学関係、 社会学・社会福祉学 関係	人文学部表現文化学科	10	6
									人文学部現代社会学科	11	7
									人文学部心理学科	9	4
									科学技術学部科学技術学科	3	1
									新規採用	7	2
		計	10	6				計	40	20	
人文学部 現代社会学科 (廃止)	学士 (社会学)	社会学・ 社会福祉学 関係	教養学部地域教養学科	11	7	\					
			退職	2	2						
	計	13	9								
人文学部 心理学科 (廃止)	学士 (心理学)	文学関係	教養学部地域教養学科	9	4						
				計	9	4					
科学技術学部 (廃止)	学士 (理工学)	理学関係、 工学関係	教養学部地域教養学科	3	1						
			その他	8	8						
			退職	9	7						
		計	20	16							

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
昭和62年4月	人文学部日本文学科 設置	文学	設置認可(大学)
	人文学部英米文学科 設置	文学	
	人文学部社会学科 設置	社会学・社会福祉学	
平成12年4月	人文学部英米文学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
平成13年4月	人文学部言語文化学科 設置	文学	設置認可(学科)
	人文学部心理学科 設置	文学	
平成13年4月	人文学部社会学科 → 人文学部現代社会学科	社会学・社会福祉学	名称変更(学科)
平成13年4月	人文学部日本文学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)
	人文学部英米文学科の学生募集停止		
平成17年4月	人文学部言語文化学科 → 人文学部表現文化学科	文学	設置届出(学科)
平成17年4月	人文学部言語文化学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)
平成17年4月	人文学部現代社会学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学	学則変更
平成20年4月	人文学部現代社会学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
	人文学部心理学科のカリキュラム変更	文学	
平成21年4月	人文学部表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
	人文学部現代社会学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学	
	人文学部心理学科のカリキュラム変更	文学	
平成22年4月	人文学部表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
	人文学部心理学科のカリキュラム変更	文学	
平成23年4月	人文学部表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
	人文学部現代社会学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学	
	人文学部心理学科のカリキュラム変更	文学	
平成24年4月	人文学部表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
	人文学部現代社会学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学	
	人文学部心理学科のカリキュラム変更	文学	
平成25年4月	人文学部表現文化学科のカリキュラム変更	文学	学則変更
	人文学部現代社会学科のカリキュラム変更	社会学・社会福祉学	
	人文学部心理学科のカリキュラム変更	文学	
平成27年4月	教養学部地域教養学科 設置	文学 社会学・社会福祉学	設置届出(学部)
平成27年4月	人文学部(表現文化学科、現代社会学科、心理学科)の学生募集停止	—	学生募集停止(学部)

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要																
(教養学部地域教養学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
初年次 教育 科目	フレッシュャーズセミナー1	1前	2					○			3	6		1		
	フレッシュャーズセミナー2	1後	2					○			3	6		1		
	小計(2科目)	—	4	0	0			—			3	6	0	1	0	
リテラ シー教 育科目	日本語リテラシー	1前	1					○			1	3				
	コンピュータリテラシー	1前	1					○				2				
	小計(2科目)	—	2	0	0			—			1	5	0	0	0	
外国語 教育科目	英語A1	1前	1					○			1	1			兼3	
	英語A2	1後	1					○			1	1			兼3	
	英語B1	1前	1					○				2			兼3	
	英語B2	1後	1					○				2			兼3	
	英語C1	2前	1					○				1			兼3	
	英語C2	2後	1					○				1			兼3	
	中国語1	2前		1				○			1					
	中国語2	2後		1				○			1					
	韓国語1	2前		1				○							兼1	
	韓国語2	2後		1				○							兼1	
小計(10科目)	—	6	4	0			—			2	3	0	0	0	兼6	
全学共通 教育科目	人文科学 分野	哲学の世界	1前		2			○			1					
		ことばの科学	1前		2			○				1				
		心の科学	1前		2			○				1				
		世界の歴史と文化	1前		2			○			1					
		倫理学の世界	1後		2			○			1					
		芸術の世界	1後		2			○			1					
		文学の世界	1後		2			○				1				
		日本の歴史と文化	1後		2			○								兼1
	小計(8科目)	—	0	16	0			—			3	3	0	0	0	兼1
一般教養 科目	社会科学 分野	法学入門	1前		2			○				1				
		経済学入門	1前		2			○								兼1
		社会学入門	1前		2			○			1					
		災害からの復興	1前		2			○			2	1				兼3
		暮らしのなかの憲法	1後		2			○					1			オピニオン・ 共同(一部)
		経営学入門	1後		2			○			1					
		ジェンダー論	1後		2			○			1					
		政治学入門	1後		2			○					1			
小計(8科目)	—	0	16	0			—			4	2	0	1	0	兼4	
自然科学 分野	自然科学のあゆみ	1前		2			○								兼1	
	健康と薬	1前		2			○								兼1	
	統計のしくみ	1前		2			○					1				
	生命の科学	1後		2			○								兼1	
	食品の科学	1後		2			○								兼1	
	地球環境の科学	1後		2			○								兼1	
小計(6科目)	—	0	12	0			—			0	0	0	1	0	兼5	
健康・ スポーツ 教育 科目	健康の科学	1前	2				○			1					兼1	
	健康・スポーツ1	1前	1						○	1					兼2	
	健康・スポーツ2	1後	1						○	1					兼2	
	小計(3科目)	—	4	0	0			—		1	0	0	0	0	兼3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基本科目	地域教養の学び	1前	2			○			3	5					社会工学・共同(一部)	
	国際コミュニケーション	1前	2			○				1						
	心理と人間行動	1前	2			○			1							
	地域と社会	1前	2			○				1						
	小計(4科目)	—	8	0	0	—	—	—	4	5	0	0	0			
専門教育科目	国際コミュニケーション	Oral Communication 1	1後		1			○								兼1
		Oral Communication 2	1後		1			○								兼1
		Oral Communication 3	2前		1				○							兼1
		Oral Communication 4	2後		1				○							兼1
		Communicative English Grammar 1	1後		1				○							兼1
		Communicative English Grammar 2	1後		1					○						兼1
		English Listening 1	2前		1						1					
		English Listening 2	2後		1						1					
		English Writing 1	2前		2			○				1				
		English Writing 2	2後		2				○			1				
		English Reading 1	2前		2				○		1					
		English Reading 2	2後		2					○	1					
		English Reading 3	3前		2							1				
		English Reading 4	3後		2							1				
		異文化コミュニケーション論	2前		2						1					
	言語と社会	2前		2											兼1	
	英米文学概論	2前		2						1						
	英米文化概論	2前		2						1						
	英語音声学1	2前		2							1					
	英語音声学2	2後		2							1					
	英語学概論	2後		2											兼1	
	グローバル化と地域社会	2後		2							1					
	海外文化体験	2後		2						1	1				集中	
	資格英語1	3前		1											兼1	
	資格英語2	3後		1											兼1	
	翻訳研究	3前		2						1						
	英米文学研究	3前		2						1						
中国の社会と文化	3前		2						1							
韓国の社会と文化	3前		2											兼1		
地域振興と国際コミュニケーション1	3前		2											兼1		
地域振興と国際コミュニケーション2	3後		2											兼1		
	小計(31科目)	—	0	52	0	—	—	—	2	3	0	0	0	兼5		
心理と人間行動	人間と社会	1後		2									1			
	認知の科学	1後		2						1						
	青年の心理	1後		2						1						
	適応の心理	1後		2						1						
	発達心理学	2前		2							1					
	犯罪と非行の心理	2前		2											兼1	
	学習心理学	2前		2						1						
	地域文化と人間行動	2前		2						1						
	心理統計学1	2前		2						1						
	心理統計学2	2後		2						1						
	心理学基礎実験1	2前		2						4	4		1		共同	
	心理学基礎実験2	2後		2						4	4		1		共同	
	学校心理学	2後		2									1			
	認知心理学	2後		2							1					
	人格心理学	2後		2											兼1	
	神経心理学	2後		2											兼1	
地域心理学	2後		2						1							
社会心理学	3前		2									1				
障害児者心理学	3前		2							1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	心理と人間行動	精神医学	3前	2		○									兼1	共同
		心理学実験法演習	3前	1			○		2	2						
		心理データ処理演習	3前	1				○		1						
		心理学英文講読	3前	1				○		1						
		生涯発達心理学	3後	2			○				1					
		比較心理学	3後	2			○				1					
		産業心理学	3後	2			○								兼1	
		臨床心理学	3後	2			○			1						
		カウンセリング演習	3後	1				○			1					
	小計(28科目)	—	0	52	0	—			4	4	0	1	0	兼5		
	メジャー科目	地域と社会	いわき学	1後	2		○			1						兼1
			社会学概論	1後	2		○			1						
			社会調査の基礎	1後	2		○				1					
			法学の基礎	1後	2		○				1					
			地域社会学	2前	2		○				1					
			調査の設計と方法	2前	2		○				1					
			法律と市民生活	2前	2		○				1					
			経済と市民生活	2前	2		○									
			経営の基礎1	2前	2		○			2						
			経営の基礎2	2前	2		○			2						
			地域福祉論	2後	2		○			1						
			社会データ分析	2後	2		○			1						
			質的調査の方法	2後	2		○			1						
			現代組織論	2後	2		○			1						
			マーケティング1	2後	2		○						1			
			マーケティング2	2後	2		○						1			
			家族社会学	3前	2		○			1						
			教育社会学	3前	2		○			1						
量的調査の方法			3前	2		○				1						
社会調査実習1			3前	1					○	1	2				共同 共同	
社会調査実習2	3後	1					○	1	2							
社会統計学	3前	2			○				1							
産業社会学	3前	2			○			1								
消費者行動論	3前	2			○						1					
観光社会学	3後	2			○			1								
環境社会学	3後	2			○				1							
社会保障論	3後	2			○				1							
非営利組織論	3後	2			○				1							
中小企業論	3後	2			○			1								
小計(29科目)	—	0	56	0	—			6	4	0	1	0	兼1			
キャリアデザイン科目	キャリアデザイン1	2前	2			○				1					共同・集中	
	キャリアデザイン2	2後	2			○				1						
	キャリアデザイン3	3前	2			○				1						
	キャリアデザイン4	3後	2			○				1						
	キャリアデザイン特講A	2後	2			○				1						
	キャリアデザイン特講B	3後	2			○				1						
	インターンシップ	3前	1					○	1	1						
小計(7科目)	—	8	5	0	—			1	1	0	0	0	兼0			
専門ゼミ・卒業研究	基礎ゼミ1	2前	1					○	4	4		1			兼0	
	基礎ゼミ2	2後	1					○	4	4		1				
	専門ゼミ1	3前	1					○	14	13		1				
	専門ゼミ2	3後	1					○	14	13		1				
	卒業研究	4通	8					○	14	13		1				
小計(5科目)	—	12	0	0	—			14	13	0	2	0	兼0			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
復興支援	復興支援論	2前		2		○			1							
	災害復興の歴史	2前		2		○			1							
	ボランティア論	2前		2		○			1							
	災害と地域1	2後		2		○			1							
	災害と地域2	3前		2		○			1							
	防災・減災の基礎	2後		2		○			1							
	原発と放射線の基礎	2後		2		○									兼1	
	復興支援演習1	2後		1			○		4	1						共同
	復興支援演習2	3前		1			○		4	1						共同
	災害と人間行動	3前		2		○				1						
	環境エネルギーの基礎	3前		2		○									兼1	
	災害復興とまちづくり	3後		2		○				1						
	復興支援と人的ネットワーク	3後		2		○				1						
	復興支援プロジェクト	3後		1			○		4	1						共同
小計(14科目)	—		0	25	0	—	—	5	3	0	0	0	0	兼2		
地域公共政策	地域公共政策の基礎	2前		2		○							1			
	憲法	2前		2		○							1			
	行政法1	2前		2		○							1			
	行政法2	2後		2		○							1			
	政治学	2後		2		○							1			
	民法	2後		2		○				1						
	経済原論	2後		2		○										兼1
	憲法演習	2後		1			○						1			
	地域行政論	3前		2		○							1			
	行政法演習	3前		1			○						1			
	政治学演習	3前		1			○						1			
	民法演習	3前		1			○			1						
	経済学演習1	3前		1			○									兼1
	経済学演習2	3後		1			○									兼1
地域政策論	3後		2		○							1				
公法演習	3後		1			○						1				
私法演習	3後		1			○				1						
小計(17科目)	—		0	26	0	—	—	0	1	0	1	0	0	兼1		
地域とビジネス	経営と戦略1	2後		2		○			1							
	経営と戦略2	2後		2		○			1							
	消費と流通1	2後		2		○						1				
	消費と流通2	2後		2		○						1				
	簿記	2後		2		○			1							
	サービスマネジメント1	3前		2		○						1				
	サービスマネジメント2	3前		2		○						1				
	経営分析の基礎	3前		2		○			1							
	人材管理の基礎	3前		2		○			1							
	企業経営事例研究	3前		2		○			1							
	消費と流通事例研究	3前		2		○						1				
	サービスマネジメント事例研究	3後		2		○						1				
	eコマースと企業活動	3後		2		○						1				
	地域と企業	3後		2		○			1							
小計(14科目)	—		0	28	0	—	—	2	0	0	1	0	0	兼0		
ICT	ICT基礎	2前		2		○				1						
	表計算演習	2前		1			○			1						
	プレゼンテーション演習	2前		1			○			1						
	情報倫理と知的財産	2前		2		○				2						
	ICT基礎実習	2後		1				○		2						
	ビジネスコンピューティング	2後		1				○		1						
	システム設計技法	2後		2			○			1						
	コンピュータシミュレーション	2後		1				○		1						
															オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	ICT	マルチメディア演習	2後	1				○			1					
		コンピュータネットワーク	3前	2			○				1					
		データベース1	3前	2			○				1					
		データベース2	3後	2			○				1					
		情報と言語教育	3前	2			○				1					
		Webデザイン	3前	2			○				1					
		Web解析	3後	2			○				1					
		小計(15科目)	—	0	24	0			—		0	4	0	0	0	兼0
	サブメジャー科目	日本語・日本文化	日本語教育文法	2前	2			○				1				
			人間文化概論	2前	2			○				1				
			日本文化史	2前	2			○				1				
			日本語表現法1	2前	1				○			1				
			日本語表現法2	2後	1				○			1				
			日本語学習アドバイジング	2後	2			○				1				
			文化社会論	2後	2			○				1				
			現代日本文化論	2後	2			○				1				
			日本文化文献講読	2後	1				○			1				
			文章と論理	3前	2			○				1				
日本語教育法1	3前	2			○				1							
日本語教育法2	3後	2			○				1							
日本文化研究A	3前	2			○				1							
日本文化研究B	3後	2			○				1							
日本語教育実習	4前	2					○		1				集中			
小計(15科目)	—	0	27	0			—		2	3	0	0	0	兼0		
教職	教職	教職論	1後	2			○				1					
		教育心理学	2前	2			○				1		1			
		教育方法論	2後	2			○				1					
		教育相談	2前	2			○				1					
		英語教育学概論	2前	2			○				1					
		教育原理	2前	2			○				1					
		教育の制度と経営	2後	2			○				1				兼1 集中	
		英語教材研究	2後	2			○				1					
		特別活動の指導法	3前	2			○				1					
		道徳教育の指導法	3前	2			○				1					
		児童英語教育論	3前	2			○				1					
		生徒・進路指導論	3後	2			○				1					
		教育課程論	3後	2			○				1				兼1 集中	
		英語科教育法1	3通	4			○				1					
英語科教育法2	4通	4			○				1							
教育実習A	3後・4前	5					○		2				共同・集中			
教育実習B	3後・4前	3					○		2				共同・集中			
教職実践演習(中・高)	4後	2					○		2				共同			
小計(18科目)	—	0	44	0			—		3	4	0	1	0	兼2		
合計(236科目)		—	44	387	0			—		20	17	0	3	0	兼26	
学位又は称号	学士(教養)	学位又は学科の分野			文学関係、社会学・社会福祉学関係											
卒業要件及び履修方法										授業期間等						
1. 全学共通教育科目から32単位以上(初年次教育科目4単位必修、リテラシー教育科目2単位必修、外国語教育科目の英語6単位必修、健康・スポーツ教育科目4単位必修、一般教養科目の人文科学分野・社会科学分野・自然科学分野のそれぞれから4単位以上計12単位以上、その他4単位以上を履修) 2. 専門教育科目から92単位以上(基本科目8単位必修、1つのメジャーから36単位以上、キャリアデザイン科目8単位必修、専門ゼミ・卒業研究12単位必修、1つのサブメジャー又は専攻するメジャー以外の1つのメジャーから16単位以上、その他12単位以上を履修) 3. 合計124単位以上修得すること。〔履修科目の登録上限:45単位(年間)〕										1学年の学期区分	2学期					
										1学期の授業期間	15週					
										1時限の授業時間	90分					

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要

(人文学部表現文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 教育 科目	必修科目	英語A1	1前	1			○								兼5
		英語A2	1後	1			○								兼5
		英語B1	1前	1			○								兼4
		英語B2	1後	1			○								兼4
		コンピュータリテラシー	1前	1			○								兼3
		キャリアデザイン1	1前	1			○			1					兼8
		キャリアデザイン2	2前	1			○								兼4
	小計(7科目)	—	7	0	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼21	
	リメ ディ アル (選 択)	数学入門	1前		1			○							兼1
		数学基礎1	1前		1			○							兼1
		数学基礎2	1後		1			○							兼1
		物理学基礎1	1前		1			○							兼1
		物理学基礎2	1後		1			○							兼1
		生物学基礎1	1前		1			○							兼2
生物学基礎2		1後		1			○							兼2	
化学基礎1		1前		1			○							兼3	
化学基礎2		1後		1			○							兼3	
小計(9科目)	—	0	9	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼7		
全学 共通 教育 科目	人間 文化 分野	哲学基礎論	1前		2			○			1				
		現代倫理学	1後		2			○			1				
		東洋思想	1前		2			○							兼1
		日本史概説Ⅰ	1前		2			○							兼1
		日本史概説Ⅱ	1後		2			○							兼1
		世界史Ⅰ	1前		2			○							兼2
		世界史Ⅱ	1後		2			○							兼2
		心の科学Ⅰ	1前		2			○							兼1
		心の科学Ⅱ	1後		2			○							兼2
		シネマ・リテラシーⅠ	1前		2			○			1				
		シネマ・リテラシーⅡ	1後		2			○			1				
		文学の世界Ⅰ	1前		2			○							兼1
		文学の世界Ⅱ	1前		2			○				1			
小計(13科目)	—	0	26	0	—	—	—	2	1	0	0	0	兼6		
教養 教育 科目	生活 社会 分野	憲法	1前・後		2			○							兼1
		教養法学	1前		2			○							兼1
		社会学	1前		2			○							兼1
		共生社会学	1前		2			○							兼1
		政治学概論Ⅰ	1前		2			○							兼1
		政治学概論Ⅱ	1後		2			○							兼1
		現代日本の国民生活と経済	1後		2			○							兼1
		経営とモチベーション	1前		2			○							兼1
		教育とは何かⅠ	1前		2			○			1				
		教育とは何かⅡ	1後		2			○			1				
		情報化社会と知的財産	1前		2			○							兼4
		図書館の仕事	1前		2			○							兼1
		災害ボランティア演習Ⅰ	1前		2				○						兼6
		災害ボランティア演習Ⅱ	1後		2				○						兼6
		災害からの復興	1前		2			○							兼6
小計(15科目)	—	0	30	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼18		
自然 科学 分野	地球の科学	1前		2			○							兼1	
	自然科学概論	1前		2			○							兼4	
	生命科学概論	1前		2			○							兼1	

(基礎となる学部学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	自然科学分野	科学技術史	1前	2		○									兼1
		工学倫理	1後	2		○									兼1
		健康と薬	1前	2		○									兼3
		現代の科学技術	1後	2		○									兼1
		小計(7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼12
	ゼミ	教養ゼミⅠ	1前		2			○		1					兼1
		教養ゼミⅡ	1後		2			○		2					兼2
		小計(2科目)	—	0	4	0	—			2	0	0	0	0	兼2
	外国語コミュニケーション	中国語1	1前		2		○								兼1
		中国語2	1後		2		○								兼1
		ドイツ語1	1前		2		○								兼1
		ドイツ語2	1後		2		○								兼1
		スペイン語1	1前		2		○								兼1
		スペイン語2	1後		2		○								兼1
		フランス語1	1前		2		○								兼1
		フランス語2	1後		2		○								兼1
		韓国語1	1前		2		○								兼1
		韓国語2	1後		2		○								兼1
		英語中級1	2前		2		○								兼1
		英語中級2	2後		2		○								兼1
		英語準上級1	2前		2		○								兼1
		英語準上級2	2後		2		○								兼1
	英語上級1	3前		2		○								兼1	
	英語上級2	3後		2		○								兼1	
	小計(16科目)	—	0	32	0	—			0	0	0	0	0	兼8	
	健康スポーツ教育科目	健康・スポーツ科学概論	1前・後	2			○								兼2
		健康・スポーツ科学演習1	1前	1					○						兼5
健康・スポーツ科学演習2		1後	1					○						兼5	
選択スポーツⅠ		1前・後		2				○						兼3	
選択スポーツⅡ		1前・後		2				○						兼3	
小計(5科目)	—	4	4	0	—			0	0	0	0	0	兼7		

(基礎となる学部学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	表現文化学概論	1後	2			○			2	3				兼1
	表現文化基礎演習ⅠA	1前	2				○		1	2				
	表現文化基礎演習ⅠB	1後	2				○		1	2				
	表現文化基礎演習ⅡA	2前	2				○		3	2				
	表現文化基礎演習ⅡB	2後	2				○		3	2				
	表現文化演習ⅠA	3前	2				○		4	3				
	表現文化演習ⅠB	3後	2				○		4	3				
	表現文化演習ⅡA	4前	2				○		4	4				
	表現文化演習ⅡB	4後	2				○		4	4				
	卒業研究	4通	8				○		4	4				
	表現の諸相Ⅰ	1前	2				○		5	3				兼4 オムニバス
	表現の諸相Ⅱ	1後	2				○		5	4				兼5 オムニバス
	舞台芸術研究	3前		2			○							兼1
	現代演劇研究	2後		2			○		1					
	映画史Ⅰ	2前		2			○		1					
	映画史Ⅱ	2後		2			○		1					
	映像学概論	3前		2			○		1					
	映像文化研究	2前		2			○		1					
	マンガとアニメ	2前		2			○		1					兼1
	日本語表現法Ⅰ	2前		2			○			1				
	日本語表現法Ⅱ	2後		2			○			1				
	文章技術演習Ⅰ	1前		2				○	1					
	文章技術演習Ⅱ	1後		2				○						兼1
	翻訳演習	2前		2				○	1					
	文芸創作演習	2後		2				○		1				
	編集技術演習	3前		2				○						兼1
	広告コピー演習	3前		2				○						兼1
	デジタル表現演習	1前		2				○						兼1
	映像制作演習	2前		2				○						兼1
	異文化体験	2後		2				○	1					
	インターンシップ	3前		2					1					学部共通 集中
	日本文法Ⅰ	1前		2			○			1				
	日本文法Ⅱ	1後		2			○			1				
	日本語学概説Ⅰ	2前		2			○			1				
	日本語学概説Ⅱ	2後		2			○			1				
	日本語学講義	3前		2			○			1				
	思想と表象	3前		2			○							兼1
	サブカルチャー論	1前		2			○							兼1
	日本文学の歴史Ⅰ(古典)	2前		2			○			1				
	日本文学の歴史Ⅱ(近代)	2後		2			○			1				
	日本文学講義Ⅰ(古代)	2前		2			○			1				
	日本文学講義Ⅱ(中世)	2後		2			○			1				
	日本文学講義Ⅲ(近世)	3後		2			○							兼1
	日本文学講義Ⅳ(近代)	3前		2			○			1				
	日本文学講読Ⅰ(古代)	1後		2			○							兼1
	日本文学講読Ⅱ(中近世)	1前		2			○							兼1
	日本文学講読Ⅲ(近代)	1後		2			○		1					
日本文学概論	1後		2			○			1					
和歌文学講義	3前		2			○							兼1	
文献研究	3後		2			○			1					
漢文学Ⅰ	2前		2			○							兼1	
漢文学Ⅱ	2後		2			○							兼1	
国語教材研究	2前		2			○							兼1	
日本語教育法	3前		2			○			1					
Oral CommunicationⅠA	1前		1				○						兼1	
Oral CommunicationⅠB	1後		1				○						兼1	

(基礎となる学部学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	Oral Communication II A	2前		1				○								兼1	
	Oral Communication II B	2後		1				○								兼1	
	Oral Communication III A	3前		1				○								兼1	
	Oral Communication III B	3後		1				○								兼1	
	English Listening I A	1前		2				○									兼1
	English Listening I B	1後		2				○									兼1
	English Reading I A	1前		2				○									兼1
	English Reading I B	1後		2				○									兼1
	English Reading II A	2前		2				○									兼1
	English Reading II B	2後		2				○									兼1
	English Writing I A	1前		2				○									兼1
	English Writing I B	1後		2				○									兼1
	英語学概論	2前		2				○									兼1
	英語音声学 I	2前		2				○			1						
	英語音声学 II	2後		2				○			1						
	児童英語教育論	3前		2				○									兼1
	英語教育学概論	2前		2				○			1						
	英語教材研究	2後		2				○									兼1
	国際コミュニケーション	1前		2				○			1						学部共通
	西洋哲学史	1後		2				○		1							学部共通
	言語学概論	3前		2				○									兼1
	西洋古典学	2後		2				○									兼1
	社会言語学	3後		2				○									兼1
	言語と心理	3前		2				○									兼1 集中
	比較文化研究	3前		2				○									兼1
	文学表現入門	1前		2				○			1						
	中国文学講読	1後		2				○									兼1
	英米文学概論	2前		2				○		1							
	英米文化概論	2前		2				○		1							
	英米文学研究	3前		2				○		1							
	比較文学研究	3前		2				○		1							
	神話と伝説	1後		2				○									兼1
	児童文学研究	2後		2				○									兼1
	キャリアデザイン3	3後		1				○		1							
	人文学基礎論	1前		2				○		2	3						兼8 学部共通
	現代社会論	1後		2				○									兼1 学部共通
社会福祉原論 I	1前		2				○									兼1 学部共通	
社会調査の基礎	2前		2				○									兼1 学部共通	
人間関係論	2前		2				○									兼1 学部共通	
文化心理学	3前		2				○									兼1 学部共通・集中	
犯罪・非行心理学特講	3後		2				○									兼1 学部共通	
小計(97科目)		—	32	161	0				4	4	0	0	0			兼31	
合計(171科目)		—	43	280	0				6	4	0	0	0			兼80	
学位又は称号	学士(文学)		学位又は学科の分野			文学関係											
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
全学共通教育科目から38単位以上、専門教育科目から必修科目32単位を含む86単位以上、合計124単位以上修得すること。 〔履修科目の登録上限：50単位(年間)〕						1学年の学期区分			2学期								
						1学期の授業期間			15週								
						1時限の授業時間			90分								

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要

(人文学部現代社会学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 教育 科目	必修科目	英語A1	1前	1			○								兼5
		英語A2	1後	1			○								兼5
		英語B1	1前	1			○								兼4
		英語B2	1後	1			○								兼4
		コンピュータリテラシー	1前	1			○								兼3
		キャリアデザイン1	1前	1			○			1	1				兼7
		キャリアデザイン2	2前	1			○			1	1				兼2
	小計(7科目)	—	7	0	0	—	—	—	2	1	0	0	0	兼21	
	リ メ デ ィ ア ル (選 択)	数学入門	1前		1			○							兼1
		数学基礎1	1前		1			○							兼1
		数学基礎2	1後		1			○							兼1
		物理学基礎1	1前		1			○							兼1
		物理学基礎2	1後		1			○							兼1
		生物学基礎1	1前		1			○							兼2
生物学基礎2		1後		1			○							兼2	
化学基礎1		1前		1			○							兼3	
化学基礎2		1後		1			○							兼3	
小計(9科目)	—	0	9	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼7		
全 学 共 通 教 育 科 目	人 間 文 化 分 野	哲学基礎論	1前		2			○							兼1
		現代倫理学	1後		2			○							兼1
		東洋思想	1前		2			○		1					
		日本史概説I	1前		2			○							兼1
		日本史概説II	1後		2			○							兼1
		世界史I	1前		2			○		1					兼1
		世界史II	1後		2			○		1					兼1
		心の科学I	1前		2			○							兼1
		心の科学II	1後		2			○							兼2
		シネマ・リテラシーI	1前		2			○							兼1
		シネマ・リテラシーII	1後		2			○							兼1
		文学の世界I	1前		2			○							兼1
		文学の世界II	1前		2			○							兼1
小計(13科目)	—	0	26	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼8		
教 養 教 育 科 目	生 活 社 会 分 野	憲法	1前・後		2			○							
		教養法学	1前		2			○			1				
		社会学	1前		2			○			1				
		共生社会学	1前		2			○							
		政治学概論I	1前		2			○		1					
		政治学概論II	1後		2			○		1					
		現代日本の国民生活と経済	1後		2			○							兼1
		経営とモチベーション	1前		2			○							兼1
		教育とは何かI	1前		2			○							兼1
		教育とは何かII	1後		2			○							兼1
		情報化社会と知的財産	1前		2			○			1				兼3
		図書館の仕事	1前		2			○			1				
		災害ボランティア演習I	1前		2				○		3	3			集中
		災害ボランティア演習II	1後		2				○		3	3			集中
		災害からの復興	1前		2			○			2				兼6
小計(15科目)	—	0	30	0	—	—	—	5	2	0	0	0	兼11		
自 然 科 学 分 野	地球の科学	1前		2			○							兼1	
	自然科学概論	1前		2			○							兼4	
	生命科学概論	1前		2			○							兼1	

(基礎となる学部学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全学共通教育科目	自然科学分野	科学技術史	1前	2		○									兼1
		工学倫理	1後	2		○									兼1
		健康と薬	1前	2		○									兼3
		現代の科学技術	1後	2		○									兼1
		小計(7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼12
	ゼミ	教養ゼミⅠ	1前		2			○		1					兼1
		教養ゼミⅡ	1後		2			○		1	1				兼3
		小計(2科目)	—	0	4	0	—			2	1	0	0	0	兼3
	外国語コミュニケーション	中国語1	1前		2		○			1					
		中国語2	1後		2		○			1					
		ドイツ語1	1前		2		○								兼1
		ドイツ語2	1後		2		○								兼1
		スペイン語1	1前		2		○								兼1
		スペイン語2	1後		2		○								兼1
		フランス語1	1前		2		○								兼1
		フランス語2	1後		2		○								兼1
		韓国語1	1前		2		○								兼1
		韓国語2	1後		2		○								兼1
		英語中級1	2前		2		○								兼1
		英語中級2	2後		2		○								兼1
		英語準上級1	2前		2		○								兼1
		英語準上級2	2後		2		○								兼1
		英語上級1	3前		2		○								兼1
	英語上級2	3後		2		○								兼1	
	小計(16科目)	—	0	32	0	—			1	0	0	0	0	兼7	
	健康スポーツ教育科目	健康・スポーツ科学概論	1前・後	2			○			1					兼1
		健康・スポーツ科学演習1	1前	1					○	2					兼3
健康・スポーツ科学演習2		1後	1					○	2					兼3	
選択スポーツⅠ		1前・後		2				○	1						
選択スポーツⅡ		1前・後		2				○	1						
小計(5科目)		—	4	4	0	—			2	0	0	0	0	兼5	

(基礎となる学部学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	現代社会論	1後	2			○			1						学部共通
	社会学基礎演習Ⅰ	1前	2				○		6	2					
	社会学基礎演習Ⅱ	1後	2				○		6	2					
	社会学概論	1前	2			○			1						
	フィールドワーク演習Ⅰ	2前	2				○		3	1					
	フィールドワーク演習Ⅱ	2後	2				○		3	1					
	国際社会論	3後		2			○		1						
	家族社会学	1後		2			○		1						選択必修
	社会学史	2前		2			○		1						選択必修
	社会史研究	2前		2			○								兼1
	いわきの歴史と文化	1前		2			○								兼1
	社会調査の基礎	2前	2				○				1				学部共通
	調査の設計と方法	2後		2			○				1				選択必修
	地域社会学	2後		2			○				1				選択必修
	社会保障論Ⅰ	2前		2			○				1				選択必修
	社会保障論Ⅱ	2後		2			○				1				選択必修
	社会学演習Ⅰ	3前	2					○		6	1				
	社会学演習Ⅱ	3後	2					○		6	1				
	社会学演習Ⅲ	4前	2					○		6	1				
	社会学演習Ⅳ	4後	2					○		6	1				
	メディア社会論	3前		2			○								兼1
	社会データ分析	2後		2			○			1					選択必修
	社会統計学	3前		2			○				1				選択必修
	非営利組織論	2後		2			○				1				兼1
	社会調査実習Ⅰ	3前		2					○	1	2				選択必修
	社会調査実習Ⅱ	3後		2					○	1	2				選択必修
	社会福祉原論Ⅰ	1前		2			○				1				選択必修、学部共通
	社会福祉原論Ⅱ	1後		2			○				1				選択必修
	地域福祉論Ⅰ	3前		2			○			1					選択必修
	地域福祉論Ⅱ	3後		2			○			1					選択必修
	人口と社会	2後		2			○			1					
	文化人類学	2後		2			○								兼1
	高齢者福祉論Ⅰ	2前		2			○			1					
	高齢者福祉論Ⅱ	2後		2			○			1					
	ジェンダー論	1後		2			○			1					
	環境社会学	3前		2			○				1				
	ボランティア社会論	3前		2			○			1					
	教育社会学	2後		2			○			1					選択必修
	比較文化論	1後		2			○								兼1
	比較社会論	2前		2			○			1					
	児童福祉論	2前		2			○								兼1
	障害者福祉論	2前		2			○				1				
	災害と社会	1前		2			○			1					
生涯学習論Ⅰ	1前		2			○			1					選択必修	
生涯学習論Ⅱ	1後		2			○			1					選択必修	
社会教育計画Ⅰ	3前		2			○			1						
社会教育計画Ⅱ	3後		2			○			1						
宗教と社会	2後		2			○			1						
地域行政論	3後		2			○								兼1	
公的扶助論	3前		2			○								兼1	
社会教育課題研究Ⅰ	3前		2			○								兼1	
社会教育課題研究Ⅱ	3後		2			○								兼1	
歴史社会学	3前		2			○			1						
コミュニケーション研究	2後		2			○			1						
質的調査の方法	2後		2			○				1				選択必修	
卒業研究	4通		8			○			6	1					

(基礎となる学部学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	ソーシャルワーク論Ⅰ	1前		2		○			1							
	ソーシャルワーク論Ⅱ	1後		2		○			1							
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2前		2		○									兼1	
	ソーシャルワーク論Ⅳ	2後		2		○									兼1	
	ソーシャルワーク論Ⅴ	3前		2		○			1							
	ソーシャルワーク論Ⅵ	3後		2		○			1							
	医学一般	1前		2		○										兼1
	中国社会学	2前		2		○			1							
	中国の文化と歴史	2後		2		○			1							
	生涯スポーツ論	2後		2		○			1							
	ライフデザイン論	3前		2		○			1							
	インターンシップ	3前		2				○	1							集中、学部共通
	社会貢献論	2前		2		○			1							
	就労支援サービス論	2後		2		○									兼1	
	社会福祉行政論と福祉計画	2後		2		○									兼1	
	権利擁護と成年後見制度	2後		2		○			1							
	更生保護制度	2後		2		○				1						
	社会福祉運営管理論	3後		2		○				1						
	保健医療福祉サービス論	3前		2		○									兼1	
	キャリアデザインⅢ	3後		1		○				1						選択必修
	人文学基礎論	1前	2			○			3	2						兼8 学部共通
	西洋哲学史	1後		2		○										兼1 学部共通
	国際コミュニケーション	1前		2		○				1						兼1 学部共通
異文化体験	2後		2		○			1							兼1 学部共通	
人間関係論	2前		2		○										兼1 学部共通	
文化心理学	3前		2		○										兼1 学部共通・集中	
犯罪・非行心理学特講	3後		2		○										兼1 学部共通	
小計(83科目)		—	32	139	0			—	8	4	0	0	0		兼25	
合計(157科目)		—	43	258	0			—	9	4	0	0	0		兼75	
学位又は称号	学士(社会学)		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
全学共通教育科目から38単位以上、専門教育科目から必修科目32単位を含む86単位以上、合計124単位以上修得すること。 〔履修科目の登録上限：50単位(年間)〕						1学年の学期区分			2学期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要

(人文学部心理学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 教育 科目	必修科目	英語A1	1前	1			○								兼5
		英語A2	1後	1			○								兼5
		英語B1	1前	1			○								兼4
		英語B2	1後	1			○								兼4
		コンピュータリテラシー	1前	1			○								兼3
		キャリアデザイン1	1前	1			○			1					兼7
		キャリアデザイン2	2前	1			○								兼4
	小計(7科目)	—	7	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼21	
	リ メ デ ィ ア ル (選 択)	数学入門	1前		1			○							兼1
		数学基礎1	1前		1			○							兼1
		数学基礎2	1後		1			○							兼1
		物理学基礎1	1前		1			○							兼1
		物理学基礎2	1後		1			○							兼1
		生物学基礎1	1前		1			○							兼2
生物学基礎2		1後		1			○							兼2	
化学基礎1		1前		1			○							兼3	
化学基礎2		1後		1			○							兼3	
小計(9科目)	—	0	9	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼7		
全 学 共 通 教 育 科 目	人 間 文 化 分 野	哲学基礎論	1前		2			○							兼1
		現代倫理学	1後		2			○							兼1
		東洋思想	1前		2			○							兼1
		日本史概説I	1前		2			○							兼1
		日本史概説II	1後		2			○							兼1
		世界史I	1前		2			○							兼2
		世界史II	1後		2			○							兼2
		心の科学I	1前		2			○			1				
		心の科学II	1後		2			○			1				
		シネマ・リテラシーI	1前		2			○							兼1
		シネマ・リテラシーII	1後		2			○							兼1
		文学の世界I	1前		2			○							兼1
		文学の世界II	1前		2			○							兼1
小計(13科目)	—	0	26	0	—	—	—	1	2	0	0	0	兼7		
教 養 教 育 科 目	生 活 社 会 分 野	憲法	1前・後		2			○							兼1
		教養法学	1前		2			○							兼1
		社会学	1前		2			○							兼1
		共生社会学	1前		2			○							兼1
		政治学概論I	1前		2			○							兼1
		政治学概論II	1後		2			○							兼1
		現代日本の国民生活と経済	1後		2			○							兼1
		経営とモチベーション	1前		2			○							兼1
		教育とは何かI	1前		2			○							兼1
		教育とは何かII	1後		2			○							兼1
		情報化社会と知的財産	1前		2			○							兼4
		図書館の仕事	1前		2			○							兼1
		災害ボランティア演習I	1前		2				○						兼6 集中
		災害ボランティア演習II	1後		2				○						兼6 集中
		災害からの復興	1前		2			○							兼7 オムニバス
小計(15科目)	—	0	30	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼19		
自 然 科 学 分 野	地球の科学	1前		2			○							兼1	
	自然科学概論	1前		2			○							兼3	
	生命科学概論	1前		2			○							兼1	

(基礎となる学部学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教育科目	自然科学分野	科学技術史	1前	2		○									兼1	
		工学倫理	1後	2		○									兼1	
		健康と薬	1前	2		○									兼3	
		現代の科学技術	1後	2		○									兼1	
		小計(7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼12	
	ゼミ	教養ゼミⅠ	1前	2			○								兼2	
		教養ゼミⅡ	1後	2			○								兼5	
		小計(2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼5	
	教養教育科目	外国語コミュニケーション	中国語1	1前	2		○									兼1
			中国語2	1後	2		○									兼1
			ドイツ語1	1前	2		○									兼1
			ドイツ語2	1後	2		○									兼1
			スペイン語1	1前	2		○									兼1
			スペイン語2	1後	2		○									兼1
			フランス語1	1前	2		○									兼1
			フランス語2	1後	2		○									兼1
			韓国語1	1前	2		○									兼1
			韓国語2	1後	2		○									兼1
			英語中級1	2前	2		○									兼1
			英語中級2	2後	2		○									兼1
			英語準上級1	2前	2		○									兼1
			英語準上級2	2後	2		○									兼1
			英語上級1	3前	2		○									兼1
	英語上級2	3後	2		○									兼1		
	小計(16科目)	—	0	32	0	—			0	0	0	0	0	兼8		
	健康スポーツ教育科目	健康・スポーツ科学概論	1前・後	2			○								兼2	
		健康・スポーツ科学演習1	1前	1					○						兼5	
健康・スポーツ科学演習2		1後	1					○						兼5		
選択スポーツⅠ		1前・後	2					○						兼3		
選択スポーツⅡ		1前・後	2					○						兼3		
小計(5科目)		—	4	4	0	—			0	0	0	0	0	兼7		

(基礎となる学部学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	社会心理学基礎論	1前	2			○							1		
	認知心理学基礎論	1前	2			○			1						
	心理学科基礎演習	1前	2				○		4	4			1		兼1
	知覚心理学特講	3前		2		○									
	心理学基礎実験Ⅰ	2前	2					○	4	4			1		
	心理学基礎実験Ⅱ	2後	2					○	4	4			1		
	人格心理学特講	2前		2		○			1						
	精神医学基礎論	1前	2			○									兼1
	発達心理学基礎論	1後	2			○					1				
	臨床心理学基礎論	1前	2			○					1				
	教育心理学特講	3前		2		○									兼1
	心理カウンセリング演習Ⅰ	3前		2			○								兼1
	心理カウンセリング演習Ⅱ	3後		2			○		1						
	教育心理学演習Ⅰ	3前		2			○		1	1			1		
	教育心理学演習Ⅱ	3後		2			○		1	1			1		
	心理学英文講読Ⅰ	2前		2		○			1	1					
	心理学英文講読Ⅱ	2後		2		○			1	1					
	心理学特殊演習Ⅰ	3前	2				○		4	4			1		
	心理学特殊演習Ⅱ	3後	2				○		4	4			1		
	心理データ処理演習	2後	2				○		1						
	心理査定法演習Ⅰ	3前		2			○				1				
	心理査定法演習Ⅱ	3後		2			○				1				
	発達心理学演習Ⅰ	3前		2			○		1	1			1		
	発達心理学演習Ⅱ	3後		2			○		1	1			1		
	フィールドワーク特講	3後		2			○						1		
	文化心理学	3前		2			○								兼1 学部共通・集中
	応用心理学特講	3後		2			○		1						
	家族心理学特講	3前		2			○								兼1
	カウンセリング特講	3前		2			○								兼1
	学習心理学特講	2前		2			○		1						
	健康心理学特講	3前		2			○								兼1
	認知心理学特講	2前		2			○				1				
	児童心理学特講	3前		2			○								兼1
	発達心理学特講	2前		2			○		1						
	コミュニティー心理学	3後		2			○				1				
	心理学実験法演習Ⅰ	3前		2				○	2	2					
	心理学実験法演習Ⅱ	3後		2				○	2	2					
	神経心理学	3前		2			○								兼1
	人間関係論	2前		2			○								兼1 学部共通
	精神生理学特講	2後		2			○				1				
	コミュニケーションの心理学	2前		2			○								兼1 集中
	犯罪・非行心理学特講	3後		2			○								兼1 学部共通
比較心理学特講	3前		2			○				1					
認知心理学演習Ⅰ	3前		2				○	2	2						
認知心理学演習Ⅱ	3後		2				○	2	2						
卒業研究	4通	8				○		4	4			1			
心理統計基礎論Ⅰ	1後	2				○		1							
心理統計基礎論Ⅱ	2前	2				○		1							
インターンシップ	3前		2							2				集中	
キャリアデザイン3	3後		1			○				1					
臨床心理学特講	2後		2			○								兼1	
動物行動学	2前		2			○								兼1	
人文学基礎論	1前	2				○		1	2					兼10 学部共通	
西洋哲学史	1後		2			○								兼1 学部共通	
国際コミュニケーション	1前		2			○								兼1 学部共通	
異文化体験	2後		2			○								兼1 学部共通	

(基礎となる学部学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科	現代社会論	1後		2		○									兼1 学部共通
	社会福祉原論 I	1前		2		○									兼1 学部共通
	社会調査の基礎	2前		2		○									兼1 学部共通
	小計(59科目)	—	36	87	0	—			4	4	0	1	0	兼25	
合計(133科目)		—	47	206	0	—			4	4	0	1	0	兼79	
学位又は称号		学士(心理学)		学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
全学共通教育科目から38単位以上、専門教育科目から必修科目40単位を含む86単位以上、合計124単位以上修得すること。 〔履修科目の登録上限：50単位(年間)〕						1 学年の学期区分			2 学期						
						1 学期の授業期間			15 週						
						1 時限の授業時間			90 分						

授 業 科 目 の 概 要			
(教養学部地域教養学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
初年次 教育科目	フレッシュャーズセミナー1	本学の初年次教育の一環として開講される新入生全員を対象とした必修科目である。大学生としての学修のために必要な基礎的かつ汎用的な能力を育成することを目標とする。フレッシュャーズセミナー1では、特に履修の仕方や学修の概念を学び、高校から大学へのスムーズな転換教育を行う。また、様々なスタディ・スキルズ(ノートの取り方、講義の聴き方など)を学び、さらに「聞く・話す・調べる」技法を学修する。併せて社会で通用する良き習慣を身につける。	
	フレッシュャーズセミナー2	本学の初年次教育の一環として開講される新入生全員を対象とした必修科目である。大学生としての学修のために必要な基礎的かつ汎用的な能力を育成することを目標とする。フレッシュャーズセミナー2では、特にフレッシュャーズセミナー1で学んだことを踏まえて、思考力の向上を目指し、「読む・書く・考える」技法を身につけ、分析力を磨く。また、発表や討論を通じてチーム力を養いながら課題解決の方法を学修する。併せて社会人として働くことの意義、職業人生を今から考えることの重要性を理解する。	
リテラシー 教育科目	日本語リテラシー	大学における充実した学修のために、日本語の読み方(読解力)と書き方(レポート作成力)のリテラシーを養う言語教育の科目である。本科目は、「読む活動」と「書く活動」の演習によって構成される。受講者全員が「読み書き」を自律的に進め、大学生に必要な日本語力を学修する。「読む活動」では、様々なメディア資料(新書・新聞・図書)の読解を通じて、批判的な読み方を身につける。「書く活動」では、文章作成能力の基礎を固めて、課題作文を課しピア・ラーニング形式で批判し合う。	
	コンピュータリテラシー	コンピュータやアプリケーションを用いて様々な情報を収集、選択、分析、加工、発信を行うためのコンピュータ、インターネットやアプリケーションソフトの基本的な使い方を習得する。また、インターネットを利用するにあたっての留意事項や情報倫理などについても考える。情報メディアリテラシーを学び、情報検索、電子メールなどの利用方法を習得する。さらに、文書処理、表計算、プレゼンテーションの各アプリケーションソフトの利用法など実習を行いながら習得する。	
全学 共通 教育科目	英語A1	英語の4技能のうち、特に読むことおよび書くことに重点を置き、大学生活における英語学習と専門分野との懸け橋となる英語の基礎的な学術言語技能を習得することを目標とする。自律的な学習を支援する観点から、受動的ではなく、予習を行い積極的な態度で授業に臨むことを指導する。また、授業後には、復習により自分の学習を振り返り、さらに図書館等の教材の活用も含めて、教室外でも英語に触れる機会を積極的に作ることを指導する。授業は年度初めのプレースメントテストの結果により、習熟度別に展開される。	
	英語A2	授業の目標、特色については英語A1に準じる。英語A1で習熟した語彙、ストラテジー等を積極的に運用し、より一層の定着を図るとともに、幅広いジャンルの内容について、書き手の意図を踏まえて読み取り、基本的なパラグラフの構成法を踏まえた上で、幅広いジャンルについて読み手を意識して書く力を育成するよう配慮する。また、聞く技能および話す技能を効果的に授業の中で運用する機会を設け、バランスの良い英語運用能力の向上を図る。	
	英語B1	英語の4技能のうち、特に聞くことおよび話すことに重点を置き、大学生活における英語学習と専門分野との懸け橋となる英語の基礎的な学術言語技能を習得することを目標とする。自律的な学習を支援する観点から、受動的ではなく、予習を行い積極的な態度で授業に臨むことを指導する。また、授業後には、復習を行うことにより自分の学習を振り返り、また図書館等の教材の活用も含めて、教室外でも英語に触れる機会を積極的に作ることを指導する。授業は年度初めのプレースメントテストの結果により、習熟度別に展開される。	
外国語 教育科目			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目 外国語教育科目	英語B2	授業の目標、特色については英語B1に準じる。英語B1で習熟した語彙、ストラテジー等を積極的に運用し、より幅広い内容について効果的に聞くことができ、聞き手を意識して話すことができるよう指導する。また、読む技能および書く技能との統合も図り、アカデミックプレゼンテーションに必要なとされる基礎的な技能の育成を図る。	
	英語C1	英語の4技能のうち、特に読むことおよび書くことにおいて、幅広い内容に触れることにより、英語学習と専門分野との懸け橋となる実践的な技能を習得することを目標とする。教材は読むことおよび書くことを主としたものであるが、積極的に聞く力および話す力を運用する活動を取り入れる。自律的な学習を支援する観点から、受動的ではなく、予習を行い積極的な態度で授業に臨むことを指導する。また、授業後には、復習を行うことにより自分の学習を振り返り、また図書館等の教材の活用も含めて、教室外でも英語に触れる機会を積極的に自主的に作ることを指導する。授業は習熟度別に展開される。	
	英語C2	授業の目標、特色については英語C1に準じる。英語C1で学んだ語彙・ストラテジー等を積極的に活用し、幅広い話題の教材を読むことから始まり、意味のある活動を与えることにより、英語の4技能を効果的に運用することに配慮する。また、教科書を中心としつつも、専門分野の文献の講読も授業外での学習の一環として課すよう配慮し、専門分野と英語学習の積極的な統合を図り、独立した学習者として授業終了後も英語学習が継続できるための指針を与える。	
	中国語1	中国語といわれる言語には主としてどのような種類の言語があるか、それぞれどんな特徴があるか、この授業で学ぶ現代漢語はいかに定義されているか、古代漢語とどう違うかなど、まず中国語とは何かを知る。そのうえで、中国文化を考察しながら、文化の一部である言語の本質をとらえ、発音から基本会話までの中国語の初歩的な表現能力を身につけることを目標とする。言語とともに中国文化に対する理解を深めながら、コミュニケーションに必要な知識を学ぶ。	
	中国語2	中国語の発音の特徴、話し言葉や文章の表現方法の基本を把握したうえで、より実用に耐える語学力を目指す。正確な発音を心がけながら、さまざまな場面における中国語の会話のパターンや中国語の文章の書き方、それに必要な知識や知恵を学び、正確かつ的確な中国語の表現能力を身につけ、中国語によるコミュニケーション能力を高めることを目標とする。さまざまなメディアを通して生の中国語に接し、文化とともに変化する言語を考察しながら、絶えず知識を更新していく。	
	韓国語1	韓国語の初学者を対象に、基礎レベルの「読み」「書き」「聞き」「話す」能力を身につけることを目標とする。日本語との類似性や相違に気づくことから始め、韓国語の文字、発音、文の構成の基本を学習する。文法の学習過程に併せて、挨拶や簡単な自己紹介など、日常生活に必要な基礎会話を習得する。また、韓国社会におけるさまざまな日常場面でのコミュニケーションが理解できるための社会的・文化的知識を習得する。	
	韓国語2	韓国語1において習得した韓国語の初歩レベルを基礎として、中級基礎レベルの会話や文法、発音などを総合的に学習表現。さまざまな生活場面で相手や状況に応じた適切な韓国語表現を選んで使う能力や、韓国語で簡単な手紙や日記が書けるレベルの作文能力を身につけることにより、韓国語を用いて韓国人とコミュニケーションすることができるようになることを目標とする。語学の他に韓国の歴史や文化、若者の関心事なども取り上げ、韓国への理解・関心を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目 一般教養科目 人文科学分野	哲学の世界	<p>哲学というものに触れ、哲学的なものの考え方を養うという事は、一般に、大学でのきわめて貴重な経験であり、大学生の特権であるとする。このことを踏まえて、本講義では、古代から現代にわたる西洋哲学の基本的諸問題を、特に「認識」と「存在」に重点をおいて見定める。哲学は世界を謎だらけにし、我々が「当たり前」と思っていることを「神秘」に変えてしまう。哲学のこのワンダーランドで受講者が「人間として生きることの意味」について根本的に考えることを目標とする。</p>	
	ことばの科学	<p>人間が音声や文字を用いて思想・感情・意思などを伝達したり理解したりするために用いる「ことば」に関する知識と応用を理解することを目標とする。本講義では「ことば」を科学の対象として捉えなおし、ことばの規則や法則を見出すことやその活用法を学修する。広範な領域を射程にする言語学の中でも特に「音声と音韻」「文法」「語彙と意味」「社会と言語」「言語教育」などを話題とし、科学としての「ことば」の学びの楽しさやその意義について考える。</p>	
	心の科学	<p>心理学の主要分野のうち、人間の日常生活に密接に関連する基礎的な内容を取り上げる。具体的には、個人差（性格・人格や知能の諸理論、心理検査の基礎知識、個人差の成立に影響を与える遺伝と環境の要因）、発達（認知や社会性の発達に関する特徴）、適応と心の健康（異常・正常あるいは適応・不適応あるいは健康・不健康の区別、心理療法の概要）を取り扱い、講義を通じて、「心とは何か」について科学的に考えられるような知識を身につける。</p>	
	世界の歴史と文化	<p>世界史における中国史の位置づけ、および中国と周辺諸国ないし世界との交流の歴史を念頭に置いて、中国文化の礎を築き後世の鑑となっている春秋戦国時代について学ぶ。周王朝の衰微、諸侯国間の争覇、諸侯国内の卿大夫間の権力闘争、秦の天下統一など、春秋戦国時代の歴史をたどりながら、諸子百家出現の時代背景とその思想的意義を考え、東洋と西洋の思想に共通性を見出す。古代文献や最新研究に基づき、王朝興亡、天下治乱の原因を追究し、中央集権国家—秦—のシステムを通して、現代中国と世界を理解するための手がかりを探る。</p>	
	倫理の世界	<p>人間の実践や行為にかかわる哲学の部門を「倫理学」と称するが、特に「べき」あるいは「道徳」を問題とするのが、狭義における倫理学である。本講義では、古代から現代にわたる狭義の倫理学を概観し、道徳の存立条件である「自由」の諸問題を理解したうえで、20世紀以降に展開された倫理学諸説の問題点を批判的に検討する。「何を為すべきか」の判定基準を見定めるとともに、「道徳」についての皮相なイメージを拭き去り、「べき」「よい」に関する根本的な観方を身につけることに目標をおく。</p>	
	芸術の世界	<p>古来、人間が追求してきたのは物質的な豊かさだけではない。精神的な充足も、生きていくうえで不可欠なものとして必要としてきた。その象徴的な存在が芸術と呼ばれるものである。芸術とははたして何を指すのか、芸術はいったい何をもちたしてくれぬのか、そして我々はなぜ執拗に芸術を追い求め続けるのか。これは、人間の本質にかかわる普遍的かつ根源的な問題でもある。本講義では、芸術の概念や機能、領域、歴史などをとおし、芸術に対する基礎的な学識が培われるようにすることを旨とする。</p>	
	文学の世界	<p>文学作品を与えられた枠組みの中で一つの正解に辿り着くような受身の姿勢で読むことから脱し、受講者が主体的に読むための枠組みを作って能動的に読みに参加することを目標とする。日本の近代小説や現代小説における代表的な作品を取り上げ、それらを文学理論だけではなく、哲学、歴史学、心理学、社会学などの人文科学的知識を用いた枠組みを通して読み、隔週ごとのレポートを提出することによって講義を進めていく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文科学分野	日本の歴史と文化	日本史の曙から、律令国家の形成・変容、武家政治の展開、近世国家の成立と近世社会の特色、明治維新以降の日本の歩み、帝国主義の拡大と東アジアでの戦争によるその崩壊、そして戦後日本に至る、日本の歴史と文化を概観し、基礎的な知識を習得する。各時代における東北地方の歴史と文化にも注目し、それぞれの時代の歴史的・文化的特色について、東北地方の事例や動向を含めて理解することを重視する。そのような観点に立つことにより、日本の歴史と文化がもつ多様性を理解することを目的とする。	
	法学入門	2009年5月にスタートした裁判員制度に象徴されるように、日本の法システムは現在大きな変革の時期にある。この講義では、そうした変革を必要とした、これまでの法システムの実態を示すとともに、現在まで進行中の状況について解説する。具体的には、立法過程、行政過程、裁判過程、法律専門職、等について取り上げる。この講義を踏まえ、受講者各自が日本の法システムの見取り図を持ち、日本の法システムの将来像について自分なりに考え、意見が述べられるようになることを目標とする。	
	経済学入門	生活をしていくには、生まれてから死ぬまで、また死んでからもお金が必要である。人生にかかるお金と生活について学ぶことは、各人が生活を送っていくにあたってきわめて重要である。この講義では、生活を取り巻く経済環境に対する知識と生活者としてそれへの対応について学ぶ。これらの内容の理解を通じて、受講者各自が、どのライフステージでどれほどの費用がかかり、どのような計画をたてる必要があるかを考え、適切に対応できるようになることを目標とする。	
	社会学入門	「社会」とは何か。私たちは普段の生活のなかで「社会」を意識することはない。しかし私たちは、他者と人間関係を取り結び、日々の活動の成果としてさまざまな制度を作り上げるなかで「社会」を作り上げている。加えて社会が近代化し、複雑になるなかで、社会のしくみも複雑化し、イメージしづらくなってきている。この授業では、自分の身の回りで生じている出来事を手がかりに「社会」の存在を発見していくこと、そして社会学の概念を用いて自分の身の回りの出来事について説明できるようになることが目的である。	
社会科学分野	災害からの復興	東日本大震災の被災地にある教育機関として、本学には、災害復興の担い手となる人材を育成し、地域へと送り出すことが期待されている。この講義では、外部から多数の講師を招き、災害と復興に関して多様な視点から学んでいく。この講義を通して、受講者各自が、地域で必要とされる社会貢献について、自分の考えを持ち、行動できるようになることを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (13 石丸純一/11回) 東日本大震災において、発災直後の救援活動に携わった警察、消防の関係者、被災者への情報提供に取り組んだメディア関係者、産業復興に取り組む農業、漁業の関係者、等の外部講師のコーディネートを行う。また、本講義の概要についての説明等、全体を統括する。 (47 吉川真一/1回) 東日本大震災におけるいわき市内の病院の状況、問題点等について論じる。災害時における医療の役割、その意義について、受講者各自が説明できるようになることを目指す。 (1 林洋一・27 山本佳子/1回) (共同) 東日本大震災に伴い、被災者に生じる心の問題、またそのケアの役割と今後の課題について論じる。災害発生後、時間の経過とともに生じる心のケアの問題について、受講者各自が説明できるようになることを目指す。 (43 佐藤健二/1回) 放射線の種類や単位など、被災地にある本学の学生が知識として有すべき基本的な事項、原発事故以降の本学の放射線に関する取組みについて論じる。これらの基本的知識について、受講者各自が説明できるようになることを目標とする。 (44 中川靖一/1回) 放射線が人体に与える影響、放射線がどのように利用・管理されているのかについて論じる。これらの基本的知識について、受講者各自が説明できるようになることを目標とする。	オムニバス方式・共同 (一部)

全学
共通
教育
科目

一般
教養
科目

社会
科学
分野

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通教育科目 一般教養科目	社会科学分野	暮らしのなかの憲法	日本国憲法の構成に沿いながら、各条文の基本的解釈およびそれに関連する基本判例を解説する。具体的には、まず、「憲法」の概念、日本国憲法の原理、人権の享有主体等、憲法を学んでいく上で必要な基本的事項について論じる。続いて、個別の人権について、精神的自由、経済的自由等の順番ですすみ、最近登場した「新しい人権」についてふれる。最後に、統治組織としての国会、内閣、裁判所の各々の性格と権能を学んでいく。これらの理解を通して、受講者各自が憲法と日常生活とのかかわりを実感できるようになることを目標とする。	
		経営学入門	今日、経済の国際化は、中小企業を含め、我が国の企業の経営に大きな影響を及ぼしている。この講義では、そうした経営環境の変化を視野に置きながら、企業活動の現状と今後の課題について学んでいく。具体的には、企業活動のグローバル化の背景、企業形態、コーポレートガバナンス、ステークホルダーとの関係、中小企業の現状、等のテーマを取り上げる。これらの内容の理解を通じて、企業とは何か、企業経営とは何かという基本的な知識を習得することを目標にする。	
		ジェンダー論	ジェンダーとは、社会的・文化的に構築された性別のあり方を指す言葉である。本講義では、現代社会における様々な社会現象や社会問題について、ジェンダーとの関連性から社会的に読み解いていくことを目標とする。授業計画としては、ジェンダーの概念と歴史、性自認、セクシュアリティ、性役割、ハラスメント、暴力など、身近な社会の出来事をジェンダーの視点から問い直し、日常生活や人間関係を通じた共生社会の構築の意味を実感できるようにすることを目標とする。	
		政治学入門	若者の政治離れ、またそれに伴う投票率の低さが指摘される一方で、インターネット上では過激な政治的主張が若者の間で展開されている現状がある。この講義では、身近な話題を導入にして、政治上の重要テーマを学習することで、受講者各自が偏った見方に陥ることなく、自分なりの政治に対する意見と市民としての自覚をもつようになることを目標にする。このような観点から、この講義では、政治と経済、官僚との関係、選挙における有権者の行動、マスメディアの役割、等のテーマを取り上げ、解説を行う。	
	自然科学分野	自然科学のあゆみ	現在に至るまで、人間は自然界の様々な現象に接してきたが、それらの現象を支配している規則を見つけ出し、自然現象を予測することに情熱を注いできた。実験で簡単に再現して見ることができない場合でも、例えば、未来の日食を予測することができる。仮説と検証の繰り返しにおいて自然界を支配する様々な規則を見出し、法則として体系化してきた。この講義では、法則そのものに対する理解だけでなく、法則の発見に至る過程やその発見に関わる社会的背景、また、その発見によって引き起こされた社会的影響などについても理解を深め、人類と自然科学との関わりについて学ぶ。	
		健康と薬	薬は、様々な病気から健康への回復の手助けとして古くから用いられている。今では、私たちの健康を維持するために欠くことのできない存在となり、セルフメディケーションなど自己責任のもとにコンビニやインターネットを通して手軽に手に入れることができるようになった。この授業では、薬を通して病気の知識と薬剤師の役割を知り、薬と健康に関する正しい知識を身につけ、これからの人生を健康で社会に貢献できるものとするを目標とする。	
		統計のしくみ	社会ではさまざまな統計調査が行われており、新聞やテレビなどを通じて、その結果が報告されている。これらの統計データを適切に読み、活用できるデータリテラシーを身につけることが目標である。そこで、この講義では、使うべき統計データの適切な選び方、統計データの処理の仕方、その結果の読み方を中心として、具体的な利用例やデータ解析結果を交えながら説明を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通教育科目	一般教養科目 自然科学分野	生命の科学	私たちは、ヒトを含めた動物や植物などの生物に関するニュースを、ほぼ毎日といってよいくらい目にしていてと言える。そこで本講義では、入学したばかりの学部1年生が生物系のニュースの内容を理解できるようになることを目標とする。講義はヒトの身体の仕組みを知ることによって重点を置いて実施し、具体的には細胞内での生命活動から始まり、組織における生理作用、個体の維持、生殖や次世代への遺伝に関連するトピックを紹介することにより、生命が有機的に関連する一つのシステムであることを理解してもらいたい。	
		食品の科学	近年、飽食や食の欧米化の浸透など、いわゆる食生活の乱れが原因で発症する生活習慣病や食中毒など、食品に纏わる問題が関心を集めるようになってきた。本講義では、栄養素の役割や消化・吸収、および栄養素の過不足によって生じる疾患について学ぶ。食品の変質により起こる食品衛生上の問題としては、食品機能の劣化のメカニズム、およびその防止方策とその安全性について学び、さらに保健機能食品と遺伝子組換え食品についても学ぶ。また、食品の安全性を脅かす大きな因子である食中毒についても概説する。	
		地球環境の科学	産業革命以降の技術の発展は、我々に生活環境の改善で大きな功績を残してきたが、その一方で、人口の増大の影響も重なり、地球環境問題が深刻なテーマとなっている。そして、福島県では東日本大震災と原発事故による問題も環境破壊に関連し、エネルギー問題にまで発展している。本講義では、オゾン層破壊や地球温暖化に代表される地球環境問題について、現状を認識し、そのメカニズムを学び、解決策について考え、自分の意見が発信できるようになることを目標とする。	
	健康・スポーツ教育科目	健康の科学	メタボリックシンドロームに代表されるように、食事や生活習慣は健康に大きな影響を及ぼす。本講義では「ダイエット」をキーワードに食事や生活習慣についての基礎知識を学び、生きる力を向上させるための生活の重要性を認識させる。また、健康に関する情報の選別、喫煙、妊娠と性感感染症のリスク、健康維持のためのエクササイズなどの情報を提供するとともに、グループディスカッション等も行いながら、自分の「からだ」に関する教養を高めることを目標とする。	
		健康・スポーツ1	ソフトボール、サッカー、硬式テニスの実習を行うことにより、健康を維持する上で必要な運動量を確保する。また、ゲームを行う過程の中で、勝利のための戦略やチームのメンバーの能力活用などの工夫からスポーツの楽しさを体感する。履修者同士で審判やゲームの記録などの運営に積極的にかかわることにより、ルールを理解し、お互いが楽しむためのルール変更や工夫ができるようになることを目標とする。	
		健康・スポーツ2	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球の実習を行うことにより、健康を維持する上で必要な運動量を確保する。また、ゲームを行う過程の中で、勝利のための戦略やチームのメンバーの能力活用などの工夫からスポーツの楽しさを体感する。履修者同士で審判やゲームの記録などの運営に積極的にかかわることにより、ルールを理解し、お互いが楽しむためのルール変更や工夫ができるようになることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基本科目	地域教養の学び	<p>地域教養学科の教育の目的、目標、方針、内容、方法を概説したうえで、各メジャー、サブメジャーのカリキュラムを紹介することにより、4年間の学びについて、学生一人ひとりが見通しと計画を持てるようにすることを目標とする。単なる科目履修ガイダンスではなく、なぜそれを履修するのか主体的に考えさせることが主眼である。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 林洋一・19 大内和子/5回) (共同) 「地域教養」とはどのような考え方なのかを説明し、メジャー制がその考え方に基づいたシステムであることを理解させる。さらに、このシステムを機能させるために、地域教養学科ではどのような特色あるカリキュラムが編成され、教育内容が用意され、教育方法がとられているかを理解させる。併せて、地域教養学科の学生として学んでいくために、人間・地域・社会に対して幅広く積極的な関心を抱く態度を養う。 (23 菊池武/1回) 国際コミュニケーションメジャーの特色と学び方について説明する。 (1 林洋一/1回) 心理と人間行動メジャーの特色と学び方について説明する。 (28 菅野昌史/4回) 担当する4回の講義において、地域と社会メジャー、復興支援サブメジャー、地域公共政策サブメジャー、地域とビジネスサブメジャーの特色を紹介する。 (33 中山英治/1回) 日本語・日本文化サブメジャーの特色を紹介する。 (17 石川哲夫・23 菊池武/1回) (共同) 教職サブメジャーの特色を紹介する。 (32 中尾剛/1回) ICTサブメジャーの特色を紹介する。 (37 初見康行/1回) キャリア教育プログラムの特色と学び方について説明する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	国際コミュニケーション	<p>グローバル化が目まぐるしく進行する現代において、言葉を用いてのコミュニケーションについて幅広い視野を培うことを目的とする「国際コミュニケーション」メジャーの入門的な科目である。具体的には、外国語活動と日本語教育との連携、外国語学習の前提となる日本語の力、早期英語教育における発見学習、日本語と英語における興味深い違い等の内容を取り上げ、日本語、英語の両方の言語に関連する様々な科目の履修を開始するにあたって知っておきたい考え方を養う機会を与える。</p>	
	心理と人間行動	<p>「心理と人間行動」メジャーで何をどのように学ぶか、またその結果としてどのような知識や技術を身につけて将来の人生設計に活かすことができるかを知るための授業科目である。心理学は、心の働きを科学的に研究する学問であるが、この講義では、心の基礎的なはたらきである、知覚、記憶、学習、思考、運動制御などを取りあげ、それぞれの基本的な事柄について理解することを主な目標としている。これらの学修を通して、複雑な人間行動と人の心の働きについて、より深く考えていくための基礎的な知識を修得する。</p>	
	地域と社会	<p>地域教養学科のメジャーの一つである「地域と社会」では、社会について理解を深め、ビジネスや公共のマインドをもって地域社会の発展に寄与する人材を養成していくため、社会学を中心に、多様な社会科学の科目が展開されている。この授業では、①社会科学の視点や思考法、②社会科学のさまざまな方法について、その基本を説明する。これらの理解を通じて、受講者が選択した「地域と社会」の科目について、自学自習できるようになることを目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 メジャー科目 国際コミュニケーション	Oral Communication 1	<p>英語における聞く力、話す力を様々な話題を通して、向上させることを主たる目的とする。この講義においては扱う題材は、日常的な会話を含む幅広いジャンルであり、学術的な内容に限定されないものである。教材についても必ずしも難度の高いものに限定されず、例えば市販のDVDなどをたくさん聞く学習法も教室外における自律的学習支援の一例として紹介する。中心となる技能は聞くことと話すことであるが、授業の中では、他の技能の積極的運用も重視し、意味のある4技能の運用を心掛ける。</p>	
	Oral Communication 2	<p>授業の目標、特色についてはOral Communication 1に準じる。Oral Communication 2においては、より多く発表の機会を設けるとともに、Oral Communication 1において学んだ語彙、ストラテジー等を積極的に運用し、さらなる定着を図るとともに、英語B1、B2で中心となっているアカデミックな内容を含む幅広い話題・状況において、それらを応用できるよう指導し、英語で積極的にコミュニケーションを図ることを指導する。</p>	
	Oral Communication 3	<p>Oral Communication 1、2および英語B1、B2で習得した聞くことおよび話すことにおける基本的なストラテジーを幅広いジャンルの話題に応用させることを主たる目的とする。この講義はOral Communication 1、2の発展的な内容であり、扱う題材については、他の技能との関連を行うことが容易である内容を持ったものである。したがって、聞いた内容を書いてまとめる、話す準備のために本を読んで調べるなど意味のある形で英語の他の技能を運用する機会が豊富に与えられるため、積極的に授業に参加することを指導する。</p>	
	Oral Communication 4	<p>授業の目標、特色についてはOral Communication 3に準じる。Oral Communication 3において習得した語彙ストラテジー等のさらなる定着を図るとともに、幅広い話題・状況において積極的に運用できるよう配慮する。語彙、文法構造等については、より幅を持ったものを運用するよう指導し、アカデミックな内容も含む様々な話題についてプレゼンテーションを行う機会を多く設ける。</p>	
	Communicative English Grammar 1	<p>高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標とする。Communicative English Grammar 1では時制や動詞の用法を中心に学ぶ。</p>	
	Communicative English Grammar 2	<p>授業の目標、特色についてはCommunicative English Grammar 1に準じる。Communicative English Grammar 1で習得した文法事項についても、Communicative English Grammar 2の中で積極的に運用し、さらなる定着を図るとともに、文法学習が教科書や文法の授業の中に限定されるものではなく、他の技能別の学習においても有効なものとなるという視点を持たせ、以後の技能別学習に資するよう配慮する。具体的な内容としては、準動詞、助動詞、関係代名詞、仮定法等を取り上げる。</p>	
	English Listening 1	<p>会話・モノローグ・ラジオ放送・テレビ放送・電話での会話・講義・インタビュー・ディスカッション等の形式を持った様々な話題を扱う教材を用い、英語を聞くために必要なストラテジーを意識的に活用しながら習得することを目標とする。授業の中では話す活動も加え、意味のある英語の運用に心がける。また、授業において学んだストラテジーを教室外の教材に応用する機会も豊富に提供し、英語のインプット量を自ら積極的に増やす自律的な学習者の育成を支援する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 メジャー科目 国際コミュニケーション	English Listening 2	授業の目標、特色についてはEnglish Listening 1に準じる。English Listening 1において学んだストラテジーをより幅の広い状況において運用し、定着を図る。また、他の技能を含む活動も積極的に加え、リスニングを中心としながらも、それのみにとどまらない意味のある英語の運用を心がけ、積極的にコミュニケーションを図る態度を育成する。	
	English Writing 1	様々な話題に関して英語を書く過程において、自分の考えや意見等を効果的に英文に反映するための様々なストラテジーを学び、英語を書くことにおける学術言語技能の基礎力を習得することを目標とする。さらに、学んだストラテジーを教室外での学習にも応用し、自律的な学習者となるための基本的な姿勢を身につけることも目標とする。具体的には、パラグラフの構成、トピックセンテンスの書き方、ライティングのプロセス等を扱い、英語のパラグラフを書くための基本的な技能を主な内容とする。	
	English Writing 2	授業の目標、特色についてはEnglish Writing 1に準じる。English Writing 1で習熟した技能を積極的に活用し、さらなる定着を図るとともに、様々な状況においても応用できるよう指導する。具体的には、様々なパラグラフの構成のパターン、意見の表現、要約の書き方、ジャンルによる書き方の違い等を扱い、エッセイライティングにつなげることを主な内容とする。	
	English Reading 1	英語A1、A2で習得したリーディングの基本的なストラテジーを幅広いジャンルの題材へ応用させることを主たる目的とする。この講義においては扱う題材は、文学を含む幅広いジャンルであり、学術的な内容に限定されないものである。教材についても必ずしも難度の高いものに限定されず、例えば多読の技法についても教室外における自律的学習支援の一例として紹介する。中心となる技能は読むことであるが、授業の中では、他の技能の積極的運用を重視し、意味のある4技能の運用を心掛ける。	
	English Reading 2	授業の目標、特色についてはEnglish Reading 1に準じる。English Reading 1で活用したストラテジーを、さらに多くの、また語彙、構文等が複雑な題材へ応用させることにより、一層の定着を図る。また、発表の機会をより多く設けることにより、学術的な内容を含む様々なジャンルの題材を用いて、読むことから他の技能も積極的に活用し、発展的に英語を運用することに習熟させる。	
	English Reading 3	English Reading 1、2に続き、リーディングの基本的なストラテジーを幅広いジャンルの題材へ応用させることを主たる目的とする。この講義はEnglish Reading 1、2の発展的な内容であり、扱う題材については、他の技能との関連を行うことが容易である内容を持ったものである。したがって、読んだ内容について、自分の意見を述べる、他の学生や教員の意見を聞く、発表のための要約を書くなど、意味のある形で英語の他の技能を運用する機会が豊富に与えられるため、積極的に授業に参加することを指導する。	
	English Reading 4	授業の目標、特色についてはEnglish Reading 3に準じる。English Reading 4においては、特に、リーディングの技能の学習の集大成としてこれまで学んだ技能を発展的に運用させ、様々なジャンルの題材をより早く正確に読む力を育成するとともに、多読を含む教室外での英語を読む活動も積極的に行うための指針を与える。さらにはプレゼンテーションの機会を特に多く設け、発展的に他の技能を積極的に運用する機会を与える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際コミュニケーション メジャー科目 専門教育科目	異文化コミュニケーション論	<p>自国にいながらも異文化と触れることが日常的になりつつある現代において、異文化コミュニケーションが重要度を増しているのは地方都市においても例外でない。そのような現状を踏まえ、本講義では、異文化コミュニケーションを構成する要素、異文化コミュニケーションのための心的態度を中心的な内容として取り上げ、自らの個性を育みつつも、他者と円滑に社会生活を営むためには何が必要なのかというテーマについて主体的に考え、意見を述べることを目的とする。</p>	
	言語と社会	<p>この授業では社会言語学（＝社会的脈絡における言語の動態に関する研究）を学ぶ。普段何気なく話していることばを、社会との関連のなかで再考し、日常生活では見落とされがちな言語の多様な在り方を検討する。社会言語学の基礎的な知識を身につけ、言語と社会の関わりを深く理解することを目標とする。具体的には、言語と国家、地域による言語の違い、言語と社会集団、人種・民族による言語差、言語と性差、言語と年齢差、言語使用の状況による違い等を取り上げる。</p>	
	英米文学概論	<p>イギリス・アメリカ文学の小説、演劇、詩など様々なジャンルの中から、代表的な作家、作品を取り上げて講義する。具体的には、作者を紹介するとともに、作品の概略について解説し、作品の書かれた時代の社会的背景、問題点、意義等についても取り上げて、文学研究の基本的な手法を習得することを目的とする。また、このような文学研究の基本的な手法は英文を多角的に読むという観点から有効であり、文学作品は英語圏の国々の政治、文化、社会の理解のために不可欠であることを認識させることにより、受講者の自律的な学習支援に資する。</p>	
	英米文化概論	<p>英米文化のバースペクティブを、文学作品や映像資料を例として用いて考察する。背景となる世界観や自然観などの知識を深め、英米文化の特質や社会の構造を多面的に捉えることを目標とする。具体的に取り上げる項目として、イギリスの4つの文化圏であるイングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドのそれぞれの歴史の概観と文化的風土、英語の地理的、社会的、機能的変異、女性論と英米における女性運動史、対抗文化とサブカルチャー等が挙げられる。</p>	
	英語音声学1	<p>英語の音声に関わる様々な事象について体系的に学ぶ。個々の母音・子音について学ぶ一方で、音と音がつながることによる音声変化、イントネーション、アクセントについても学び、自分自身の発音にも反映できるよう練習する。理論より実践的な内容に重点を置く。継続的な学習が望まれるので、学んだことを他の英語の授業あるいは授業外でも積極的に活かし、予習・復習をした上で、授業に参加することを指導する。この授業においては主として母音を中心とした内容を扱う。</p>	
	英語音声学2	<p>授業の目標、特色については英語音声学1に準じる。主として子音を中心とした内容を扱うが、英語音声学1で習熟した内容についてはこの授業の中でも活用し、さらなる定着を図るとともに、応用力を養成する。また、ストレス、リズム、イントネーションの指導により重点を置き、個々の音を向上させることのみが発音向上のための条件ではないことを強調し、英語の運用能力向上のために発音が果たす役割についても認識を深くさせ、継続的な発音学習についての指針を与える。</p>	
	英語学概論	<p>英語という言葉の成り立ちやその背景にある歴史を概観した上で、英語の音韻論、統語論、形態論についての基本的な事柄を習得する。具体的には、英語の基本的な調音法、音素とその仕組み、音声変化、形態素の特徴、語形形成論、派生語と複合語、英文における構造と構成素の関係、英文における句の構造等を取り上げることによって、英語の特性や構造のしくみを学び、さらに「ことば」全体に対する興味を深めていくことを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際コミュニケーション メジャー科目 専門教育科目	グローバル化と地域社会	<p>グローバル化は急速に進行し、地方都市においてもその影響は様々な形で及んでいる。本講義においては、そのような状況の中で生きる人間として何が必要なのか主体的に考え、自分なりの見解を持つことを主たる目的とする。具体的には、異なる言語、異なる文化との接触、さらに、それらを持つ人々の交流を通して、異なるものへの寛容さ、柔軟性を身につけ、相互理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ることの重要性を取り上げ、受講者の意識の喚起を図る。</p>	
	海外文化体験	<p>海外の国々において、ホームステイ、語学学校での研修、その他現地における様々な活動を通し、実践的な語学力の向上を図るとともに、異文化理解を深めることを目標とする。渡航先の国はオーストラリア、イギリス、タイの3か国で、年度ごとに異なる。事前指導、現地での活動、事後の活動を通して、自律的な英語学習者となることの意義および重要性を認識し、自ら実践することによって、履修後も自律的な英語学習者となり、継続的に英語の運用能力の向上に努めることができるようになることを最終的な目標とする。</p>	
	資格英語1	<p>実践的な英語の運用能力を重視する昨今の状況を踏まえ、様々な検定試験に対応しうる英語の運用能力の向上を試みる科目である。英語検定試験、TOEIC、TOEFL等の代表的な検定試験の形式に慣れるとともに、単に得点の向上を目指すのではなく、日常の英語学習において、テスト形式に左右されない英語の運用能力を向上させるための学習ストラテジーを習得し、自律的な学習者となることを支援する。この科目は様々な資格試験の形式に慣れ、様々な学習ストラテジーを活用することを主目的とする。</p>	
	資格英語2	<p>授業の目標、特色については資格英語1に準じる。資格英語2では様々な資格試験の問題に実際に取り組む機会を増やすことにより、資格英語1において習熟したストラテジーを実際の資格試験の状況に近い形で運用させ、実践力を向上させることに重点を置く。学期中に最低1回は資格試験を受験することを課し、その結果をもとに、担当教員が助言を与え、以後の学習に対しての指針を示すことにより、資格試験受験を通して、自律的な学習者となることを支援する。</p>	
	翻訳研究	<p>英語と日本語の各々の背後にある文化の違いに留意した上で、英語の文章を日本語に翻訳する作業を実践する。この作業を通して受講者一人ひとりが、日本語と英語の表現方法の差を認識し、言葉の深さを実感として味わうことを目標とする。具体的な指導内容としては、主語を適切に訳したり、省略したりすること、主語である代名詞を適切に訳したり省略したりすること、無生物主語の文を適切に翻訳すること、関係代名詞、受動態、比較級、最上級等のある文を適切に翻訳することなどが含まれる。</p>	
	英米文学研究	<p>英米の文学作品の中から、イギリス小説『オリヴァー・ツイスト』、アメリカ演劇の代表作『ガラスの動物園』『セールスマンの死』を取り上げる。作品の構造を綿密に分析しながら、ストーリー、プロット、キャラクター、作品のテーマや表現形式の特徴などを適切に読み取ることが目標とする。その上で、作品のテーマについて、作者の体験や当時の社会問題、社会状況、文化の特質、時代背景等とも関連づけて説明できることも目標とする。</p>	
	中国の社会と文化	<p>変化する中国社会を歴史的に考察し、数千年にわたって育まれてきた多彩な文化を文学芸術作品に見る。大道を理想としながらも、小康を肯定せざるを得ない古代社会、革命を経て築き上げられた現代社会を知る手がかりとして、それぞれの時代を象徴する文化の特徴を把握し、それらの文化が生み出した詩歌、小説、音楽、映画などさまざまなジャンルの作品に中国文化の神髄を見出す。文化の変遷をたどることによって、中国社会をさまざまな側面から分析し、そのシステムを解明することを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 メジャー科目 国際コミュニケーション 心理と人間行動	韓国の社会と文化	韓国の社会と文化についての基本的な知識を修得し、隣国に対する理解を深める。現代の韓国社会の政治、社会制度、文化のさまざまな側面について、具体的な出来事や若者・女性・韓流等をめぐる身近な事象をとおして学ぶとともに、それらの背景をなす韓国の伝統社会の社会構造や宗教についても学習する。日頃から韓国に関連するニュースや情報、日韓共通の社会問題等に関心を持ち、それらを的確に現代世界の文脈のなかに位置づけることのできるグローバルな感覚を養う。	
	地域振興と国際コミュニケーション1	英語の4技能のすべてを意味のある形で運用し、大学生活や地域社会に関わりのある幅広い内容に関してプレゼンテーションを行う技能を習得することにより、英語をコミュニケーションの手段として積極的に運用することを目標とする。英語力向上を真剣に目指す意欲を持った学生が、各メジャーの枠を超え、切磋琢磨しながら学ぶために開講されている地域教養学科における英語の学びの集大成というべき科目である。積極的な態度で授業に臨み、教室外での自律的な学習に努めることを指導する。	
	地域振興と国際コミュニケーション2	授業の目標、特色については地域振興と国際コミュニケーション1に準じる。この授業においては、発表の機会をより多く設けるとともに、地域振興と国際コミュニケーション1で習得した技能を活用し、より一層の定着を図り、使用する語彙の幅を広げ、文構造もより複雑なものを活用できるよう指導する。また、効果的なプレゼンテーションはどのようなものなのか学生相互にプレゼンテーションを実践することから学ばせ、大学においてのみならず、地域と世界をつなぐ志を持ち、生涯にわたり英語を学び続けることの重要性についても理解を深める。	
	人間と社会	社会の様々な場面で生じる人間関係、および人間と社会の関わりを科学的な視点から学ぶことを目的としている。同調、服従、社会的ジレンマ、リーダーシップの社会心理学の古典的知見について学ぶとともに、恋愛や結婚・離婚、いじめなど日常生活で直面する人間関係の問題についても学習する。また、偏見・差別、マインドコントロール、風評被害、詐欺・悪徳商法などニュース等で報道される様々な社会的な事象についても、社会心理学の観点から考察する。	
	認知の科学	日常生活において、見る、覚える、話す、考える、理解するといった心の働きに注意を向ける機会は少ないかもしれない。しかし、これらの機能は、日常生活を送る上で重要な機能であり、その機能特性については、これまで認知心理学において研究されてきた。この講義では、日常生活との関わりを重視しながら、認知心理学の基礎的知見について取り上げてゆく。具体的には、知覚や注意、記憶、思考、言語、社会的認知などといったトピックを扱う。	
	青年の心理	青年期は「第二の誕生」の時期とも呼ばれ、人間の社会性の発達や主体的自己形成にとって非常に重要な時期である。この講義では、児童期から青年期への移行、青年期から成人期への移行を含めて、青年期における心身の発達について述べる。講義内容は、青年心理学の歴史と研究方法、発達段階としての青年期の一般的特徴、身体的・性的発達、思考と感情の発達、人格・社会性の発達、適応と精神病理、社会参加と進路選択などである。	
	適応の心理	人間は社会的動物とも言われ、社会の中に生まれ生涯を送る。したがって、人間が生きていくことは、社会からの要求や規制との間のバランスをとっていく過程であるとみることもできる。この講義では、適応とは何かについて考察し、適応が崩れた時に生じる様々な問題について見ていく。授業は講義形式で行い、適応とはどのような状態か、ストレスと適応、対人関係における適応、家族関係における適応、職場における適応、社会生活における適応などについて概説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 メジャー科目 心理と人間行動	発達心理学	発達心理学とは何か、それはどのようにして発展してきたか、各研究分野ではどのようなことが明らかになってきたか等の歴史、研究方法も含め、主に胎児期から児童期までの発達について説明できることを目標とする。最初に、発達研究の方法について理解する。ついで、発達における、遺伝と環境の要因を扱う。その後、胎児期、乳児期、児童期のそれぞれにおける生理的特徴と、認知・心理・社会的特徴などを扱う。	
	犯罪と非行の心理	犯罪と非行行動について、その実態、統計的分析、基礎理論、研究方法についての知識と理解を深める。このことを通して、社会の中で非行や犯罪がどのように捉えられているかを知るとともに、現実の犯罪や非行との差異についての認識を深める。また、何をもちて犯罪や非行というのかについて、刑法、ラベリング理論、社会分業論の立場から説明できることも目標とする。	
	学習心理学	学習心理学について、古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習、技能学習を取りあげ、それぞれの歴史的背景、実験的な手続きや成立の条件、特徴、代表的な研究者、および学習の理論まで包括的な知識を身につける。さらに、日常生活での様々な行動を、学習心理学の観点から考察・分析できるようにすることを目標とする。	
	地域文化と人間行動	人間の心理や行動は、人間が作り出す文化および社会の問題と切り離して考えることはできない。この講義では、心理学を中心に、文化人類学などの文化・社会と関わる様々な学問領域からの知見も含めて、地域文化と人間との関係について考察する。私たちが生きる基盤としての地域をあらためて見直し、それぞれの地域が持つ文化的同一性と価値を再検討することが、この授業の主要な目標になる。	
	心理統計学1	心理学の研究を行う上で、データの取り方、整理の仕方、分析の仕方、解釈の仕方を身につけることは重要である。とりわけ、数値で得られたデータから結論を導くために、心理統計学に精通しておくことが不可欠となる。この講義では、心理学研究法の概要、データの数量化とその意味、記述統計法の基礎について概説を行う。種々の心理学研究法の特徴、数量化の留意点、4つの尺度と使い分け、データ分布の把握の仕方、代表値や散布度などの算出法等について、しっかりと身につけることを目標とする。	
	心理統計学2	心理統計学1で学んだ事項に加え、より高度で実践的なデータ解析の基礎を身につけることを目標とする。具体的な教育目標は2つある。1つは、2変数の関係把握の仕方（クロス集計表・散布図・回帰・相関係数等）を理解し身につけること、2つ目は、推測統計法の基本的な考え方を理解し、推定や検定を適切に行えるようになること、である。データ処理の方法についても、実習を通じて体験的に学ぶ。心理統計学1と並んで、本講義は、心理学の方法論的基礎を学ぶための科目として位置づけられる。	
	心理学基礎実験1	実証科学としての心理学の基礎的な研究方法について学ぶ。受講者は、ペアないしはグループで実験等に参加し、レポートを作成する。実験者・被験者を交互に体験することによって、実験計画の立て方、実験実施の仕方、結果の整理と分析の仕方について学ぶ。系列位置効果、両側性転移、要求水準、集団式知能検査、生理学的実験などを行い、それらの結果を解析する統計法の基礎についても学ぶ。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 メジャー科目 心理と人間行動	心理学基礎実験2	<p>心理学基礎実験2では、グループで行う実験等を中心に学ぶ。また、個々の実験を開始する前に、講義による解説（統計処理の方法、統計用ソフトの使い方、文献検索の仕方など）が行われる。学習内容は、いわゆる実験ばかりではなく、知能検査・性格検査などの心理検査法、質問紙調査法、実験計画法、多変量解析法など多岐にわたる。</p>	共同
	学校心理学	<p>学校教育の現場では、学習困難、いじめ、非行など、様々な問題で児童・生徒が支援を必要としている。講義では、これらの問題を抱える児童・生徒の学校生活の質を向上させる心理教育的援助サービスについて学ぶ。子ども、および子どもを取り巻く環境（学級、学校など）を支援するためのアセスメント、カウンセリング、コンサルテーション、コーディネーションについて学び、学校内で実施可能な心理的支援について理解を深める。特に、いじめ、不登校、発達障害などの学校不適応に焦点をあてる。</p>	
	認知心理学	<p>知覚心理学と認知心理学の分野から、図と地の成立、3次元空間の成立（絵画的要因・網膜像差・運動視差など）、色の知覚（色・光の三原色と混色のメカニズム）、かたちの知覚（主観的輪郭・知覚的透明視など）を取り上げ、視知覚に関する基礎知識を身につける。さらに、情報のデザインの中における視覚的特徴を学び、視知覚の特性がどのように日常生活で応用されているのかを理解する。これらの現象を通して、人間の視知覚の特徴を理解することを目標とする。</p>	
	人格心理学	<p>人間の個性を形成する「人格」について、その研究の歴史、研究方法、定義、様々な理論、成り立ち、規定するものについての考え方、把握するための方法、病理などについて学ぶ。講義形式の授業ではあるが、自己理解・他者理解の観点から、心理検査やレポートなどを取り入れながら進める。講義の終了時には、一人ひとりの個性について観察の視点を持ち、科学的に説明し、対人関係に活かせるようになることを目標とする。</p>	
	神経心理学	<p>人間の行動をコントロールしている脳と心理現象との関係について学ぶ。脳損傷により生じた高次脳機能障害を通して、認知、意図的な行為、記憶、注意、情動、言語等を産み出す脳の仕組みやその解剖学的側面についての理解を深める。脳の解剖学的構造、生理的機能について理解し、大脳の局所的損傷によって起こる視覚障害、聴覚障害、言語障害、体制感覚の障害、高次の運動障害から、脳の仕組みや障害発生メカニズムを知る。さらに、高次脳機能障害のリハビリテーションについて理解を深める。</p>	
	地域心理学	<p>地域、すなわちコミュニティで生じる様々な心理的事象について、心理学の知識と方法をもとに研究することが地域心理学の目標である。具体的には、複雑に相互作用しあう社会システムと個人の行動との両者を結びつける心理過程全般について考察する。この両者を、概念的かつ実証的に明らかにすることによって、個人、集団、および社会システムがよりよく機能することを期する、実践的な学問でもある。併せて、地域心理学の知見を、地域での生活に役立てることを目標とする。</p>	
	社会心理学	<p>社会心理学の各トピックを学ぶことにより、日常生活の人間関係や、ニュース等で報道される事象を科学的な視点から理解することを目的としている。社会的認知、自己、言語的・非言語的コミュニケーション、態度、集団、文化、および援助行動や攻撃などのテーマについて、これまでに提唱された理論とその根拠になった実験・調査、および問題点を学び、社会のさまざまな場面で生じる人間関係や、人間と社会のかかわりを捉える指針を修得する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 メジャー科目 心理と人間行動	障害児者心理学	身体障害・精神障害・知的障害の3障害について、機能的・生活的・社会的問題がどのように生じるかを比較し、それぞれの特徴について理解する。その上で、疾患・障害別に、発症時の心理・障害への気づき・障害の受容・障害を持ちながらの生活などの各段階における本人や家族の心理について学ぶ。また、「障害者権利条約」などに伴う社会的立場や今後の問題点について考察し、社会的偏見などの事象についての適切な理解のもとに、自分なりの意見が持てるようになることを目標とする。	
	精神医学	精神医学の発展の歴史について概観し、医学における精神医学の特徴、正常と異常を判断する基準などについて学ぶ。また、日本の精神医療の現状、および関連する法律についての理解を深める。さらに、精神疾患の成因について、その分類の仕方、現在使用されている診断マニュアルについて学び、併せて中枢神経系、末梢神経系の形態と機能について理解を深める。代表的な精神疾患である統合失調症、気分障害、ストレス関連障害、身体表現性障害等の概念、症状、診断の概要を説明できることを目標とする。	
	心理学実験法演習	心理学研究を行っていく上では、基本的な研究方法の理解と、その習得が必要不可欠となる。本演習は、①心理学にはどのような研究方法があるか、②それぞれのようによい方法、③どのような点に注意をすればよいか、④研究結果はどのような統計処理にかければよいかについて、特に「実験法」を中心に上げてゆく。さらに、実際に実験実習を行うことで、技法の理解と同時に、技法の習得を目指す。	共同
	心理データ処理演習	心理学の実験・調査で必要とされる一連のデータ分析について、基礎的な知識を身につけるだけでなく、それらを表計算ソフトおよび統計ソフトを利用して実施できることを目標とする。具体的には、データの整理、基本統計量の算出、要約データを図表で表すこと、t検定、分散分析、回帰分析、因子分析といった記述統計、推測統計、さらには多変量解析の一部までを対象とする。	
	心理学英文講読	心理系の英語テキスト、英文ジャーナル、インターネット上の英語情報等を読みこなすことにより、心理学の知識を英語で身につけることを目標とする。具体的な教育目標の1つは、英文読解を通じて心理学の基本事項（専門用語や基礎理論等）について学ぶことである。もう1つは、英語力の基礎（語彙、文法、構文読解力等）を養うことである。心理系の大学院を受験するためには、心理学の基礎知識と英語力が不可欠となる。その意味では、高度な専門教育を学ぶための準備教育としても位置づけられる。	
	生涯発達心理学	人間の受精から死に至るまでの、獲得と喪失の全過程を発達とする視点から、加齢による様々な変化を説明できることを目標とする。また、成人期以降、老年期から死に至るまでの時期の変化を説明できることを目指す。最初に、生涯発達という視点が誕生した背景とその後の発展について理解する。次に、成人期以降の様々な変化について、生理的な面、心理的な面、社会的な面を関連させながら検討する。最後に、死を迎えることについての討論を行う。講義に加えて、必要に応じて討論を行う。	
	比較心理学	人間の行動や心理を理解するためには、人間に関する心理学的知見を学ぶだけでは不十分である。この講義では、ヒトと他の動物たちの行動を比較することで、ヒトの特性を「進化」の視点からより深く理解する。進化的にヒトに近いと考えられている類人猿の心理・行動に関する実証的知見だけでなく、その他の動物たちの多様な行動特性についても取り上げる。さらに、近年注目されている進化心理学に関する知見として、性差や道徳的行動などについても述べる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 メジャー科目 地域と社会	産業心理学	産業心理学は、産業における人間の行動を心理学的な方法で研究し、職場の生産性を高めたり、労働・組織・経営等に関する諸問題を解決するために有効な知見を提供しようとする心理学の一分野である。産業心理学が取り扱う範囲は非常に広いが、この講義では、主に、組織内の人事、仕事への動機付け、リーダーシップ、人間関係のストレス、キャリア発達、消費者行動などについて述べる。将来、産業心理学の知見を自分自身の職業生活に活かせるようになることも目標の1つである。	
	臨床心理学	臨床心理学が成立した歴史的背景やこころの問題が生じるメカニズム、そしてこころの健康を取り戻すための方法について学び、こころの健康についての理解を深め、日常生活に活かすことができることを目的とする。講義では、臨床心理学の歴史、気分障害、不安障害、統合失調症、発達障害などの発生メカニズムについて述べる。こころの健康を回復するための技法として、精神分析、行動療法、クライアント中心療法、家族療法、ブリーフセラピーを取り上げ、その人間観や治療理論について概説する。	
	カウンセリング演習	臨床心理学の基本的技法である「カウンセリング」の意味や働きについて、できる限り事例を通して学び、中でも、カール・ロジャーズの提唱した来談者中心療法・カウンセリングマインドについての理解を深める。特に「傾聴」については、実習を重ねながら体験的に理解する。また、倫理的問題や他の心理治療との違いを理解した上で、対人援助の場において、人の気持ちを引き出し、理解するための基本技法として、実際に使えるようになることを目標とする。	
	いわき学	地域教養学科では、地域社会、とりわけ、いわき市に貢献できる人材の養成を目指している。いわき市は東日本大震災により甚大な被害を受けた浜通り地方の中核となる都市であり、東北地方で有数の工業都市、観光都市でもある。この講義では、歴史、自然、文化、産業、等の視点から、各分野で活動されている外部講師を招き、「いわき」について多面的に学んでいく。受講者が「いわき」ならではの魅力を発見できるようになるとともに、「いわき」の発展、さらには浜通りの復興について考え、行動できるようになることを目標とする。	
	社会学概論	社会学の歴史及び各種理論を解説するとともに、各種資料を活用しながら具体的に学んでいく。統計的資料をはじめとした数量的データのほか、新聞や週刊誌の記事等の質的データも駆使しながら、さまざまな社会的諸現象の解明を試みる。これらの内容の理解を通して、受講者が、自身の生活世界を基盤とした社会的センスを身につけ、社会現象や社会問題へ具体的にアプローチする力を獲得することを目標とする。	
	社会調査の基礎	社会調査の意義を理解し、調査票調査や聞き取り調査などの考え方を習得することを目的とする。「なぜ社会調査が必要なのか？」を知るために、その歴史をふりかえるとともに、官庁統計、世論調査、学術調査などの実例を数多く紹介する。また調査を行う際の注意点（調査倫理）や、「無駄な調査」をしないために既存資料の活用術についても理解する。この授業では、調査をおこなう「調査者」として必要なマナーを身につけ、調査データを読みこなす能力を高めることを目標とする。	
法学の基礎	法律学を学ぶために必要不可欠な概念、制度、原理・原則、それらが形成された歴史的経緯、等について概説する。具体的には、法とは何か、法と道徳、法の形式、法の発展、等のテーマを取り上げる。これらの内容の理解を通じて、市民社会を律している法律という存在を身近に感じられるようになるとともに、公務員を目指す等、これから法律学を学んでいく受講者が、自ら学習していく上で必要となる知識と技能の涵養を目標とする。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 メジャー科目 地域と社会	地域社会学	この授業の目的は、地域社会が抱える問題を考えるための知識と枠組みを学ぶことである。21世紀に入って地域社会を取り巻く条件が変化しつつある。現代社会におけるコミュニティの役割と機能を理解するとともに、中心市街地の衰退、限界集落問題、災害による行政機能の低下、市町村合併を通じた行政サービスの变化、などを事例にして、地域社会が抱える課題について社会学の視点から理解してゆく。この授業を通じて、自らが居住する地域社会について分析・理解し、将来において地域づくり/まちづくりに主体的に関わっていくことができるようになることを目標とする。	
	調査の設計と方法	この授業の目的は、質問紙調査の企画からデータの収集、分析に至る一連の流れについて学ぶことである。自治体の意識調査から、内閣支持率・選挙予測調査、テレビ視聴率調査まで、我々はさまざまな調査結果を目にする。しかし、質問の仕方が不適切な調査や、対象者に偏りがみられる調査などが少なくない。質問紙調査は、その方法がでたらめだと、全く意味のないものになってしまう。授業では調査企画から分析までの一連の流れを意識することで、社会にとって意義のある質問紙調査ができるようになることを目指す。	
	法律と市民生活	一般の人と人との関係を規律する法律の総称である私法の基礎にある「民法」という法律、そのなかでも、特に「総則」の領域を中心に、基本的な知識の習得を目標とする。民法は、人、物、お金、家族や相続に関する法律である。人、団体（会社を含む）、財産および取引契約等について学ぶことにより、現代社会の理解を深め、知恵を磨くことができるようにしたい。	
	経済と市民生活	経済問題は我々一人ひとりの生活に直結するものでありながら、それを正しく理解するツールである経済学の方法をきちんと身につけている人は意外に少ない。この講義では、具体的な事例に即しながら、その正確な理解を主眼として、マクロ・ミクロの経済理論の基本について学んでいく。そうした経済学の基本的な考え方や基礎理論を身につけることで、新聞の経済記事を理解したり、経済問題について論理的に考えたりできるようになることを目標とする。	
	経営の基礎1	経営管理を中心として、広く経営学の対象科目全般に関する基本的な概念や理論の理解を目指す。具体的には、「経営とは何か」「組織とは何か」といった広義の経営学の基本的な考え方について、①生産管理、②マーケティング、③財務管理、④組織、⑤人材マネジメント、⑥アントレプレナーシップ、の各視点から、講義形式により、基本的な考え方を具体的な企業および組織の事例を交えて理解し、経営学の基礎的用語、概念、理論を理解する。	
	経営の基礎2	経営の基礎1の授業内容を受けて、経営学発展の歴史、さらには様々な企業における経営活動の各局面における取り組みの事例研究などを通じて、企業経営に関する理解を深める。	
	地域福祉論	社会の変化に伴う福祉機能の変遷など、現代の福祉社会の基本的事項を理解する。その上でコミュニティソーシャルワークの理論と実際のあり方について、様々な生活問題の解決のために住民自身が取り組む自助、困難な場合は地域の人々による共助、公的な機関の公助への理解を深め、地域課題への取り組みを習得することを目標とする。授業計画としては、地域福祉の理論・理念、発達過程、行政・民間組織・住民の役割、専門職とネットワーク、社会資源の活用・調整、福祉ニーズの把握・評価、地域福祉計画など、その内容について説明することができるようになることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 メジャー科目 地域と社会	社会データ分析	社会現象を解明する上で、必要な情報の収集とコンピュータを用いたその適切な処理の方法を身につけ、官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文などの情報や統計の収集とそれら进行分析・考察するための基礎的知識を学ぶことを目標とする。授業計画としては、単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの計算および基本的な読み方・まとめ方、相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、疑似相関の概念などを習得することを目標とする。	
	質的調査の方法	質的データを収集する方法や分析のための技法について基本的な事項を説明する。具体的には、聞き取り調査、参与観察法、フィールドワーク、インタビューの方法やそれらの方法によって収集したデータの分析法（エスノメソドロジ的会話分析、等）について取り上げる。質的調査の多様性や調査実施上の注意点を認識した上で、受講者が自らの問題関心に基づいて、調査を企画、実施できる能力を身につけることを目標とする。「社会調査士」資格を取得するための必須科目のひとつであり、他の科目も併せて受講することが望ましい。	
	現代組織論	集団とは何か、組織とは何か、企業とは何かについて、経営組織に関係のある基本的な概念と理論を理解する。具体的には、ミクロ組織論の範疇である個人のモチベーション、意思決定メカニズム、リーダーシップ、小集団（グループダイナミクス）などについて、代表的な理論の解説を行い、具体例を提示する。後半では、マクロ組織論の範疇である組織の構造と機能について、分業と調整メカニズムの観点から解説を行い、官僚制とネットワーク組織、企業間関係、組織文化、組織変革などについて、同じく具体例を用いて実践的に理解することを目標とする。	
	マーケティング1	ビジネスにおける売れる仕組みについて学習する。市場との関係で製品のコンセプトをどのように開発するのか、競争優位となる価格設定をどのように行うか。また、広告などのプロモーションをどのように有効に活用するか、そして、顧客にアクセスするチャネルをどのように設計・管理するかなど、について具体的な事例を通して講義する。また、マーケティングとは、売するための技術だけでなく、企業理念としても理解することが重要である。モノが売れないと企業が悩む時代に、マーケティングの意義をしっかりと理解する。	
	マーケティング2	マーケティング1で学習した知識とフレームワークを活用して、具体的な企業の事例をケーススタディとして学習する。マーケティングに関するメーカー、卸売業、小売業、サービス業の代表的、先端的な企業のマーケティングを通じて、売れる仕組みがどのように構築され、運営されているのかを実践的に学ぶ。授業の中では、グループ討論の機会を設け、学生間のインタラクション（相互作用）による啓発も重視する。	
	家族社会学	家族社会学の基礎的な理論と技法の側面、それらを応用した事例分析に基づき、現代家族の多様な動態とそれらの問題と課題を読み解くことを目標とする。授業計画としては、家族研究の意義、家族社会学の基礎概念、その成立と展開、現代社会における夫婦・親子関係の諸相、家族変動と家族構造の変化、海外の家族研究の動向などを取り上げ、多様化・個人化する現代家族の動態とそれに伴う家族問題の現状を読み解く力を習得することを目標とする。	
	教育社会学	教育社会学とは、教育を社会現象のひとつとしてとらえ、教育を社会との関係という視点から分析する学問領域である。この講義では、新聞等で報じられた具体的な教育問題を取り上げながら、理論的、実証的に考察していく。いじめや不登校等、メディアにたびたび現れる教育問題については、個人の経験や印象論から語られることが多い。この講義では、受講者がそうした問題について、理論的に議論し、理解を深められるようになることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 メジャー科目 地域と社会	量的調査の方法	社会調査のデータ分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルの知識を身につけることを目標とする。授業計画としては、サーベイ調査による統計データを用い、アプリケーションソフトを利用した重回帰分析を基本としながら、他の計量モデル（例えば、分散分析、パス解析、ログリニア分析、因子分析、クラスター分析、数量化理論などの中から若干のものを取り上げる）の手法を使った分析力を習得することを目標とする。	
	社会調査実習1	本実習は、社会調査の全過程について実習を通じて体験的に学習する授業で、量的調査または質的調査のいずれかを実施する。身近な地域社会をフィールドに調査の企画、地域に関する基礎分析、調査の実施、結果の分析、報告書の作成まで、1年を通じて学生とスタッフが協力してすすめることを目標とする。社会調査実習1の授業計画としては、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施、インタビューなどのフィールドワークを実施することを目標とする。	共同
	社会調査実習2	社会調査実習2は社会調査実習1に引き続き開講される科目である。したがって、受講者としては、同一年度に両実習を受講する学生を想定している。社会調査実習2では、調査の実施後のエディティング、コーディング、集計（アプリケーションソフトを利用した統計的分析）やフィールドノート作成、仮説検証、報告書の作成を行うことができるようになることを目標とする。	共同
	社会統計学	統計ソフトを用いた統計データの加工・分析の方法について演習形式で学習する。自らが収集したデータまたは二次分析データを分析する際、単に統計ソフトが使えるだけでなく、何を明らかにするために、どのようにデータを加工・分析し、それを用いてどのような知見・考察を導き出すのかが問われる。そのための方法の習得を目標とする。	
	産業社会論	産業社会は、消費者を対象とした消費財の生産・流通にとどまらず、業務用需要者を対象とする生産と流通、そして生産財、産業財の流通を含めた全体システムを含む仕組みによって成り立っている。本講義では、そうした消費財・産業財・生産財を含めた産業社会の仕組みと併せて、その各段階における主要な企業の行動について理解を求めめるものである。	
	消費者行動論	消費者の購買行動について、理論と応用を講義する。理論編では、これまでの消費者行動研究の系譜を概観したのちに、情報処理モデルや精緻化見込みモデルなど最近の理論モデルの特徴を学習する。その後に、購買意思決定プロセスに従い、問題認識から情報探索、代替案評価、決定、購買後評価の段階ごとに、その特徴を学習する。応用編では、購買意思決定プロセスを小売業の店舗内行動にあてはめ、インスタア・マーチャンダインギングの体系から、売場生産性を上げるための理論と技術をスーパーマーケットを初めとする具体的な事例を取り上げて理解を深める。	
	観光社会学	観光とは、もっとも身近な生活行動・様式であるとともに、地域や国単位でも重要な施策的な機能を有する社会現象である。この講義では、いわき市の事例を踏まえながら、観光について、歴史、地理、国際比較という視点から考察していく。この講義を通じて、受講者各自が、観光を社会的に考察する方法を習得し、その考察の結果から見えてくる、いわき市の観光の課題について対策を考えることができるようになることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域と社会 メジャー科目	環境社会学	環境問題を社会学の視点から理解するための知識ならびに分析枠組みの習得を目的とする。21世紀に入って環境問題が重大な社会問題として認識されるようになった。くわえて福島第一原発事故により福島県は未曾有の公害被害を受けている。この授業では、これまでの環境問題の発生や対応の歴史について理解するとともに、環境問題についてどのように考えたらよいか、そして原発事故に対してどのように考えればいいのか、その指針としての環境社会学の考え方について理解し、応用することを目的とする。	
	社会保障論	我が国や欧米の社会保障の基本的な考え方や歴史的発展、制度の種類や対象者、社会保障の理論とその具体的な各種の制度について理解を深めることを目標とする。授業計画としては、欧米および我が国の社会保障の概念・理念、我が国の社会保障の法体系と実施方法、年金保険・医療保険・介護保険・労働保険・雇用保険などの各種制度の理解、公的扶助制度や各種社会福祉制度との関係、社会保険と民間保険との関係など、その内容について説明することができるようになることを目標とする。	
	非営利組織論	地域づくり／まちづくりの上で欠かすことのできない主体へととなった非営利活動／非営利組織について学習する。ボランティア活動やNPOなど市民活動のこれまでの歴史、活動内容、実際の運営、行政とのパートナーシップについて学ぶことを通じて、まちづくりにおける非営利組織の重要性を理解する。その上で、具体的にNPO法人などの非営利組織を立ち上げる際に必要な「社会起業」のための知識の修得を目指す。	
	中小企業論	日本の企業の99%を占め、全雇用者数の約7割を雇用している中小企業の経営の実態について、①最近の中小企業を取り巻く経営環境と中小企業経営における課題、のほか②大多数の人が働き自己実現の場でもある「職場としての中小企業」、さらに③中小企業の大多数を占めるファミリービジネスとしての中小企業における経営戦略、の3つの視点から、具体的な事例を用いて、講義形式により中小企業経営の実態を理解する。	
キャリアデザイン科目	キャリアデザイン1	「ライフ」と「キャリア」の関係、仕事を通じての成長、環境変化に必要な意識や習慣等々、「自分らしい人生設計をするための20代の在り方」を学習する。自己理解を深め自らの「したい事」「できる事」「すべき事」を考察する。	
	キャリアデザイン2	自分が「働く場」を考えるために、社会・企業についての理解を多面的に深める。自らが「働く」ことをイメージできるように個別研究やディスカッションを中心に進める。またディスカッションを通じて「討議する力」を養う。	
	キャリアデザイン3	2年次に学習した「社会人としてのキャリアを積むために必要な知識と考え方」をリアルに進路決定に役立てるための深掘りとスキルの幅を拡げる。また、2年次で学んだ数々のワークショップを反復することにより意識化の推進を図る。	
専門教育科目			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キャリアデザイン科目	キャリアデザイン4	「一人ひとりが納得性の高い社会人スタート」を切るため、3年前期までのキャリア系授業や経験からのキャリアマッチングを行うと同時に、進路選択の本格的な始動を控え、流れの把握をベースに就職活動に関わる具体的スキル（エントリーシートや面接・適性検査）についての徹底訓練を行う。	
	キャリアデザイン特講A	ベーシックなコミュニケーションスキルから「インパクトある自己アピールができる」を目指す。自己の持ち味を表出する力の向上のために基礎の見直し（発声・言葉遣い・表情）からインプロビゼーションの手法を活用したセッションにより自己表現力を高める。	
	キャリアデザイン特講B	企業活動のポイントを経営戦略やマーケティング等々の経営的な視点で考察する事を通じ仕事についての理解を深める。時事問題はじめ社会で起こることに対しての情報収集や咀嚼を通じて、社会への関心の幅を広げる。	
	インターンシップ	実業に近い経験を通して「働く事」「職場」の理解を深める。またその事前準備において、「社会人基礎マナー」や「組織で働く基本的な意識」を理解し実行に活かし終了後のリフレクションに繋げる。	共同
専門ゼミ・卒業研究	基礎ゼミ1	基礎ゼミはメジャー別のクラス編成とし、専攻するメジャーで学ぶための基礎力を養成する。基礎ゼミ1では、メジャーについての基礎的な知識や視点を獲得するとともに、メジャーに関連する問題やテーマを自ら見出す意欲を養う。また、1年次に身につけたアカデミック・スキルやリテラシーを活用して、専攻分野に関連する基礎的文献の読み・要約・評価、自らの主張や意見の発表、与えられたテーマのもとでの討論等を重ねていく。これらの実践を通して、アカデミック・スキルの向上と総合化を図る。	
	基礎ゼミ2	基礎ゼミ2では、専攻するメジャーで学ぶための基礎力について、総仕上げを行う。基礎ゼミ1に引き続き、専攻分野に関連する情報や文献の収集、発表、討論の実践を積み重ねるとともに、それらから得られた成果をレポートや小論文としてまとめる力、さらにはスライドやポスターの形式でプレゼンテーションする力の育成に特に力を入れる。また、3年次以降のメジャーおよびサブメジャーの学習について具体的な展望をもち、明確な学習目標と学習計画を自ら立てられるよう指導する。	
	専門ゼミ1	専門ゼミは、専門研究をスタートさせ、4年次の卒業研究に繋げるゼミである。専門ゼミ1では、2年次までの学習を踏まえ、現段階における興味の対象を漠然とでもイメージ化する。次いで、その分野にかかわる参考文献を調べ、それらの重要事項や問題点をレジュメにまとめてゼミで発表し、質疑応答や討論を行う。これにより、研究を行う上での基礎知識、学会の現状や課題、研究方法等を学ぶとともに、自らの研究テーマを明確にし、卒業論文に向けての方向性を固めることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門ゼミ・卒業研究	専門ゼミ2	専門ゼミ2は、専門ゼミ1に引き続き実施する。具体的には、専門ゼミ1で培った知識や方法論に基づき、関心のある事項について、さらなる文献・資料の収集と検討を重ね、アンケートや実地調査や実験を行う等、課題の解決に向けた具体的な研究実践に取り組む。この実践と反省を踏まえて、各自が研究テーマを決定し、論文作成に向けた研究計画を実際に立案できることを到達目標とする。受講者が互いのテーマに関心を抱き、幅広い専門分野について適切なコメントや質問ができるようになることも重視する。	
	卒業研究	指導教員の指導に従い、専門ゼミ1および専門ゼミ2での準備研究に基づいて、4年間の学びを卒業論文の形で集大成する。論文作成にあたっては、研究テーマの明確化、先行研究の収集・分析、課題と方法の設定、調査や実験の実施、結果の解析および考察等が、それぞれ十分緻密・的確に行われることを重視する。研究のプロセスを体験することにより、問題を発見する能力および解決を求める積極性や粘り強さを養うとともに、論理的な文章の作成法や説得力ある表現の技法を身につける。仕上げとして、卒論発表会において研究成果を公けにする。	
専門教育科目 サブメジャー科目	復興支援論	「復興」には「復旧」とは異なり、災害の発生以前と比べ「より良い状態になる」という意味合いが込められていると言われる。しかし、その良さを測る基準が複雑・多様なため、「復興支援」という概念は依然曖昧なままである。そこでまずは「復興支援」といわれる諸活動を束ねる試みが必要であると考える。この講義では、「復興支援」活動の実例や実践者の体験を踏まえ、「復興支援」の具体的なイメージを描き、今後のこの活動の意義を明確にするとともに、展望を図っていくことを目標とする。	
	災害復興の歴史	「災害大国」といわれる日本においては、災害が起こることを前提に、いかに身を守っていくかを考えることが重要である。その際、ヒントとなるのが過去の災害からえられる教訓である。この講義では、具体的に、中越・中越沖震災、阪神淡路大震災、関東大震災、明治三陸大津波、等を取り上げて、防災と復興について考えていく。災害が起きた当時の社会状況はどのようなもので、どのような被害がもたらされたのか。その後の社会にどのような影響を与えたのか。これらの解説を踏まえ、将来の災害への対応について、ともに考える。	
	ボランティア論	現代社会は過疎化、高齢化や、大規模災害などさまざまな課題に直面している。このような社会の課題への解決主体として現在、ボランティアが注目されている。この授業ではボランティアの歴史的背景や意義などを紹介し、実践を前提とした活動参加について準備を行うことを目的とする。ボランティア活動の実践例を学ぶことで社会とは何か、公共とは何かを考え、ひいては自らがボランティアを企画・組織できるようになることを目指す。	
	災害と地域1	災害とひとくくりに言っても、地震、水害、津波、原発事故と多様である。災害の種類に応じて地域社会の対応力・復元力も異なってくる。同じ地震といっても、どこで発生するのか（都市―農村）によって被害・復興の過程は異なる。この授業では、過去の日本において発生した大規模災害を事例とし、さまざまな災害に対応する地域社会の対応・復興の道程を概観し、災害と社会との関係について理解する。	
	災害と地域2	災害と地域1で得た知識を前提として、東日本大震災の被災地について考えることが目的である。東日本大震災は地震、津波、福島第一原子力発電所事故（以下、原発事故）が折り重なる複合災害と呼ばれており、地域社会における被害の現れ方、さらには復興の過程も複雑である。津波被災地と原発事故の被災地に関して、被害―避難―支援、住民と行政、など多様な論点に即して災害が地域社会に及ぼす影響について考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
サブ メ ジ ャ ー 科 目 復 興 支 援 専 門 教 育 科 目	防災・減災の基礎	この講義では、まず、自然災害の誘引となる自然現象について解説し、自然災害から我々の生活を守るための避難行動、等について学ぶ。次に、現在、減災のソフト施策の中心となっているハザードマップや防災情報、等について解説する。自然災害の発生メカニズム、国や自治体の災害関連の諸制度、また防災と減災技術について学び、災害時に適切な対応ができるようになることを目標とする。	
	原発と放射線の基礎	東日本大震災後に起こった福島第一原子力発電所事故によって大量の放射性物質が大気中に放出され、その影響は未だ収束の域に達していない。そこで本講義では、まず、放出された各種の放射性物質が原発の中、どのように過程で生成されたかを解説する。次に、放射性物質の放射能と健康リスクの指標となる放射線に関する基礎事項について解説する。	
	復興支援演習1	防災やボランティア、環境に関する取り組みを演習・実習形式で学習することにより、復興支援という共通の目的に向かって、集団で動く／を動かすための態度や技能の習得を目指す。受講者は復興支援論、ボランティア論を履修していることが望ましい。災害の与える影響は地域社会の特性によって異なる。特に、この授業では、高齢化が進む中山間地域における実習を通じて、この点についての理解を深める。	共同
	復興支援演習2	防災やボランティア、環境に関する取り組みを演習・実習形式で学習することにより、復興支援という共通の目的に向かって、集団で動く／を動かすための態度や技能の習得を目指す。受講者は復興支援演習1を履修していることが望ましい。特に、この授業では、復興支援演習1等における各自のボランティア体験についてグループディスカッションを行い、より広い視野から支援活動のあり方について検討する。さらにそれを踏まえ、改善策を考え、プレゼンテーションを行う。	共同
	災害と人間行動	東日本大震災以降、災害時における人間行動について知ることには必須となっている。それは、人間の行動様式が常に一定ではなく、環境や状況により大きな変化を見せることがあらためて明白になったからである。この講義では、大規模災害等の緊急時における人間の行動様式、例えば、避難行動、犯罪等に関する風評、支援行動について考察を行う。そうした行動の発生原因と周囲への影響に関する理解を通して、それらの行動を抑制あるいは促進するための方策について検討できるようになることを目標とする。	
	環境エネルギーの基礎	資源の少ない日本が持続可能な社会を構築する上では、地球環境問題とともにエネルギー問題を早急に解決することが必要不可欠である。本講義では、理科的分野とは違った社会的分野の視点からエネルギーについて学び、社会的な要素を多分に含んでいる「環境エネルギー」の基礎知識を理解する。そして、日本の経済とエネルギーの関係、環境とエネルギーの関係について学ぶことで、エネルギーの将来について自ら考え、震災・原発事故を経験した福島県の再生可能エネルギー戦略に関する最新情報を身につけることを目標とする。	
	災害復興とまちづくり	過去の災害復興の歴史をまちづくりの視点から見えていくことで、社会のなかに災害への備えをどのように位置づけていくのかについて考えることが目的である。災害は緊急期、応急対応期、復旧・復興期というプロセスをたどるが、災害前からの地域社会づくりが復興を妨げることもあるし、さらには復興プロセスによって地域社会が衰退していくことも指摘されている。災害から復興するための実践活動について事例紹介するとともに、それを踏まえて将来発生する大規模災害に向けた防災・減災のあり方について考えていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	復興支援と人的ネットワーク	東日本大震災は地域における人と人とのつながり、すなわち、パーソナル・ネットワークに甚大なダメージを与えた。このような事態に対応して、被災者はどのような態度や行動をとったのか、また、仮設住宅等における新たなネットワークの構築にはどのような支援が必要なのか。この講義では、パーソナル・ネットワークに着目し、それが被災者に与えた影響、他方、被災者からネットワークへの働きかけの両側面から検討を行う。これらの理解を踏まえ、復興支援のためのネットワークのあり方について、ともに考える。	
	復興支援プロジェクト	復興支援演習1、2を通じて取り組んだ内容を踏まえ、防災やボランティア・環境に関する取り組みや、教材開発などを学生が主体となって企画・実施・運営し、その成果によって単位を認定する。プロジェクトチームは3～5名程度の学生によって構成され、教員およびコーディネータが、プロジェクトの進行についてアドバイスをを行う。	共同
専門教育科目 サブメジャー科目 地域公共政策	地域公共政策の基礎	公共政策とは社会問題を解決するための手段である。それは、どのようにデザインされ、決定され、実施・評価されているのか。この講義では、その実際のプロセスを観察・分析することで得られる知識を中心に、政策決定に投入される知識や公共政策そのものに関する知識についても併せて説明する。また、被災地である地元いわき市及び福島県が抱える雇用問題や住宅問題などの政策課題を取り上げて、地域における公共政策の実際について理解を深める。これらの理解を通じて、受講者各自が地域社会の問題の解決について、理論的に考察できるようになることを目標とする。	
	憲法	この講義では、全学共通教育科目の暮らしのなかの憲法、地域と社会メジャー科目の法学の基礎を踏まえ、日本国憲法についてより深い理解を目指す。具体的には、最高裁判例の詳細な解説を行うとともに、それと対立するような考え方（裁判例や学説）も示し、個々の判例を多面的に考察していく。現実の社会においては、今日の正解が明日もそうだという保証はない。受講者は、講義で取り上げた判例の内容、すなわち現時点での正解について、両当事者の主張を踏まえつつ、説明できるようになることを目指してもらいたい。	
	行政法1	道路や上下水道の維持管理、社会福祉事業の運営、犯罪の取締り、等々、行政の活動は私たちの生活に密接に関係する。この講義では、まず、そうした多様な領域で、行政活動がどのような法原則に基づいて、どのような基準や手順で行われるのか、そうした行政の作用に関する内容について、次に、行政活動の主体である国および地方自治体の組織や制度について解説する。これらの内容の理解を通じて、民主的行政のあり方や現代行政の存在意義を具体的に把握できるようになることを目標とする。	
	行政法2	行政法1で取り上げるように、行政の活動はあらかじめ法的に規制されている。しかし、そうした活動も人が行う以上、そこにはどうしても間違いが生じる可能性がある。そこで、そのような間違いによって、私たちの権利や利益が侵害された場合に、それを救済する手段が確保されていなければならない。この講義では、一般に「行政救済法」といわれる分野、具体的には、国家賠償法、行政不服審査法、行政事件訴訟法について、解説する。行政法1と併せて、行政法の基本的知識、その全体像の理解を目標とする。	
	政治学	この講義では、まず、社会科学としての政治学について、その方法論を学ぶ。次に、政治制度とその理論を説明する。具体的には、①議院内閣制と大統領制、②単一制と連邦制、③議会、④選挙、⑤政党を取り上げ、諸外国の制度とともに、各制度に関する政治学の理論を解説する。その上で、圧力団体、マスメディア、政治心理、投票行動、政治過程、等の個別テーマについて論じる。これらの内容の理解を通じて、政治に関する基礎知識の習得とともに、多様な見方ができる、良き市民としての教養の涵養を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 サブメジャー科目 地域公共政策	民法	法律は空気のように私たちが生活する空間に存在し、生活できる空間を構成・維持している。しかし、空気同様、普段の生活で法律を意識することはあまりない。そうした法律の中でも私たちの最も身近なところにあるのが「民法」という法律である。この講義では、そうした民法の基本的な考え方、仕組みの理解を通じて、私たちの生活空間に対する法学的な見方を身につけることを目標とする。	
	経済原論	現代の経済学の基礎理論について解説する。現代の経済学は、18世紀のアダム・スミスの古典派経済学から、20世紀のジョン・メイナード・ケインズの経済学などを経て、今日では「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」として体系化されている。受講者が、これらの経済学の基本的な考え方を理解し、現実の経済問題を理論と関連させながら考察できるようになることを目標とする。	
	憲法演習	憲法をめぐる主要な論点につき、①問題の所在、②判例の立場、③学説の対立、④考察という観点から分析を行う。それにより、憲法における人権保障のあり方や統治機構の仕組みを正確に理解するとともに、具体的な問題について自ら思考する能力を養うことを目標とする。事前に判例等を読んだことを前提に、ディスカッション形式を中心に授業を進めていく。受講者としては憲法を履修した学生を対象とする。	
	地域行政論	現在、日本の行政は大きな改革の時代を迎えている。この講義では、そのような改革の対象となっている「行政」について、さまざまな角度から検討を加える。具体的には、次のような問いについて検討していく。まず、社会科学としての行政学とはいかなる学問か。次に、行政の活動を担う公務員の選抜・編成は、どのような特徴をもち、それは歴史的にどのような形に形成されてきたのか。また現在どのような批判を受けているのか。さらに、こうした行政と政治はどのような関係を取り結んでいるのか。これらの検討を通じて、より望ましい行政のあり方について、ともに考えてきたい。	
	行政法演習	行政法上の重要論点について、具体的な事案（判例）を通して演習形式で学んでいく。毎回の授業は、報告者による報告を踏まえた議論、次に、関連する公務員試験の問題への取り組み、議論という2部構成で行う。これらの過程を通じて、行政法についての正確な知識を習得するとともに、行政の将来の課題についての的確なビジョンをもてるようになることを目標とする。受講者は、原則として行政法1、行政法2を履修した学生を対象とする。	
	政治学演習	政治学上の重要論点について、具体的な事案を通して演習形式で学んでいく。毎回の授業は、報告者による報告を踏まえた議論、次に、関連する公務員試験の問題への取り組み、議論という2部構成で行う。これらの過程を通じて、政治学についての正確な知識を習得するとともに、現実の政治的問題について理論的な議論ができるようになることを目標とする。受講者は、原則として政治学を履修した学生を対象とする。	
	民法演習	民法上の重要論点について、具体的な事案（判例）を通して演習形式で学んでいく。毎回の授業は、報告者による報告を踏まえた議論、次に、関連する公務員試験の問題への取り組み、議論という2部構成で行う。これらの過程を通じて、民法、特に財産法についての正確な知識を習得することを目標とする。受講者は、原則として民法を履修した学生を対象とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目 サブメジャー科目 地域公共政策 地域とビジネス	経済学演習1	景気回復、雇用創出、環境対策等、行政には経済分野への対応が求められる課題が数多く存在する。そこで、この演習では、公務員を志望する学生を対象に、経済学、特にマクロ経済学について、問題演習によって学んでいく。これらの過程を通じて、マクロ経済学の基本についての正確な知識を習得するとともに、現実の経済問題について理論的な議論ができるようになることを目標とする。受講者は、原則として経済と市民生活、経済原論を履修した学生を対象とする。		
	経済学演習2	経済学演習1に引き続きこの演習では、公務員を志望する学生を対象に、経済学、特にミクロ経済学について、問題演習によって学んでいく。これらの過程を通じて、ミクロ経済学の基本についての正確な知識を習得するとともに、現実の経済問題について理論的な議論ができるようになることを目標とする。受講者は、原則として経済学演習1を履修した学生を対象とする。		
	地域政策論	この講義では、まず、日本の地方自治制度の歴史を概観し、日本の地方自治制度の特質を把握する。その上で、日本の地方自治制度がどのように作動しているかという実態を、経験的な分析に基づいて明らかにする。さらに、被災地である地元いわき市及び福島県が抱える雇用問題や住宅問題などを取り上げながら、地方自治の課題を考察する。これらの理解を通じて、地方自治の問題に関して理論的な疑問を提起し、それを解決するための思考力の獲得を目指す。		
	公法演習	公法とは、国家と国民との関係を規律する法律の総称である。この演習では、公務員を志望する学生を対象に、憲法、行政法に加え、刑法について、問題演習によって学んでいく。これらの過程を通じて、各分野の基本についての正確な知識の定着を図るとともに、現実への応用力を身につけることを目標とする。受講者は、原則として憲法演習、行政法演習を履修した学生を対象とする。		
	私法演習	私法とは、私人と私人との関係を規律する法律の総称である。この演習では、公務員を志望する学生を対象に、民法、商法について、問題演習によって学んでいく。これらの過程を通じて、各分野の基本について正確な知識の定着を図るとともに、現実への応用力を身につけることを目標とする。受講者は、原則として民法演習を履修した学生を対象とする。		
	経営と戦略1	戦略論の基本概念を学び、競争戦略論や資源ベース理論などの基礎理論を学ぶ。また、代表的な戦略策定のための分析方法について、実践的に学ぶ。基本概念としては、戦略とは何か、企業ビジョンとは何か、経営資源とは何かについて学ぶ。理論については、顧客適応戦略、マイケル・ポーターの競争戦略論、多角化戦略とアライアンス、資源ベース理論などを具体的な企業戦略の実例を用いて学ぶ。代表的な戦略分析の方法論としては、SWOT分析やPPM分析などについて、具体的な企業を選んで実際に分析を行い、実例と比較することで、分析から戦略策定までの考え方や手法を身につける。		
	経営と戦略2	一流といわれる企業においても、なんらかの理由で業績が低迷したり不祥事を起こして倒産したり、企業再生法の適用を受けることもある。本講義では、企業が経営不振に陥る理由、ならびに企業が再生していくプロセスを、実際の事例から、企業の経営不振の原因や企業再生にとって必要な要件を理解するとともに、グループワークを行い、問題点の抽出と構造化・可視化の手法を学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 サブメジャー科目 地域とビジネス	消費と流通1	商品の生産と消費をつなぐ流通の意義と機能といった基礎理論から、サプライチェーン・マネジメントを説明する流通ダイナミクスの理論までを一通り講義する。その後、小売業態、特に、百貨店、総合スーパー、食品スーパーマーケット、コンビニエンス・ストアなどの経営原理と実態を具体的な事例を通じて学習する。さらに、流通イノベーションを続けるアパレルのSPA業態を例に、生産と流通の新しい分業関係にも焦点を当て、流通の先端で起きている事象についての理解を深める。	
	消費と流通2	消費と流通1で学習した知識とフレームワークを活用して、具体的な企業の事例をケーススタディとして学習する。マーケティングに関する卸売業、小売業、サービス業の代表的、先端的な企業のマーケティングと流通を通じて、企業のサプライチェーンや流通システムがどのように構築され、運営されているのかを実践的に学ぶ。授業の中では、グループ討論の機会を設け、学生間のインタラクション（相互作用）による啓発も重視する。	
	簿記	会計科目の基礎として、企業会計の技術的側面である簿記の基礎を習得する。簿記とは、企業の経営活動において発生する取引を記録し、それらを要約して企業の財政状態と経営成績とを計算・確認する技術である。この講義ではまず、複式簿記の原理について説明し、次に商品売買業の企業において行われている簿記の基礎的な方法について修得させる。	
	サービスマネジメント1	サービス商品のマーケティングとマネジメントについて、理論と応用から講義する。財としての製品とサービスの違いから始まり、サービスの経営特性について学習する。サービスのマーケティングでは、サービス商品のマーケティング戦略のフレームワークを学習する。応用編では、インターネットサービス業、外食企業、娯楽サービスなど、具体的なサービス業界の企業事例を通じて、競争優位のビジネスの仕組みについて理解を深める。	
	サービスマネジメント2	サービスマネジメント1で学習した知識とフレームワークを活用して、具体的な企業の事例をケーススタディとして学習する。マーケティングに関するサービス業の代表的、先端的な企業のサービスマネジメントを通じて、サービスの開発と提供の仕組みがどのように構築され、その組織が運営されているのかを実践的に学ぶ。授業の中では、グループ討論の機会を設け、学生間のインタラクション（相互作用）による啓発も重視する。	
	経営分析の基礎	企業の実態を理解するために、経営分析を行う際の基礎的知識を身につけることを目的として講義を行う。その中で、企業という存在をどの様に捉えることができるのかを理解する。以上の目的にのっとり、①財務諸表の基本構成、②収益性分析・売上高利益率、③収益性分析・資本利益率、④活動性分析・回転率と手持月数、⑤安全性分析・短期安全性、⑥安全性分析・長期安全性、⑦付加価値分析、⑧成長性分析、について講義を行う。また、各項目については、実際に活用される有価証券報告書を活用して、分析を行う。	
	人材管理の基礎	企業における人材を重要な経営資源として扱い、経営における人的資源管理の役割をはじめ、人材の雇用管理、人材開発、人事考課、賃金管理、福利厚生、労使関係管理など、様々な管理活動である人事システムについて取り上げるとともに、雇用の流動化、多様化など人事を取り巻く環境変化や、職能資格制度など人材の管理活動を統合したトータル人事システムについても取り上げ、企業における人材の重要性とその人材をいかに効果的に育成・活用するのかについて理解することを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域とビジネス サブメジャー科目 専門教育科目	企業経営事例研究	主に福島県内に本社や事業所を展開するメーカーについて、事例研究を通じて理解を深める。消費財に加え生産財、産業財などの各領域の事業展開の論理について確認するとともに、その主要企業の事業展開について取り上げる。また、それら各分野の企業の実務担当者などをゲストスピーカーとして迎え、受講者の理解を深める。	
	消費と流通事例研究	主に福島県内に本社や事業所を展開する小売業、卸売業・商社など流通業について、各業種・業態別の事業展開論理について確認するとともに、その主要企業の事業展開について事例研究を通じて理解を深める。小売業では、百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、ドラッグストア、生協など業態を基準とする。また卸売業・商社については消費財分野を中心に業種別に取り上げる。また、企業の実務担当者などをゲストスピーカーとして迎え、受講者の理解を深める。	
	サービスマネジメント事例研究	主に福島県内に本社や事業所を展開するサービス業について、事例研究を通じて理解を深める。金融機関、物流、情報・通信などの各領域の事業展開の論理について確認するとともに、その主要企業の事業展開について取り上げる。また、企業の実務担当者などをゲストスピーカーとして迎え、受講者の理解を深める。	
	eコマースと企業活動	本講義では、インターネットを活用したマーケティングについて講義する。EC（電子商取引）の世界は、リアルな市場とどのような点で異なり、ビジネスの仕組みがどのような特徴をもつのかについて、具体的な先進事例を通じて学習する。インターネットにおけるマーケティング戦略のフレームワーク（製品、価格、プロモーション、チャンネル）をインターネット市場に置き換えて、競争優位を獲得できるビジネスの仕組みについて考える。	
	地域と企業	いわき市を中心とする福島県の産業と企業への理解を深める。そのため、市役所や県庁などの行政機関、商工会議所・商工会などの業界機関の担当者、そして地場の主要企業の経営者などをゲストスピーカーとして迎えて、受講者とのディスカッションを通じて地域産業および地域企業に関する理解を深める。 また、地域のNPO法人など非営利組織の関係者をゲストスピーカーとして迎え、地域における事業としての「特定の公益的・非営利活動」についても学ぶ。	
	ICT基礎	情報通信機器（携帯電話、スマートホンやタブレット端末）、コンピュータ本体（ハードや周辺機器）、ソフト（OSやアプリケーション）、マルチメディアなどを中心に、身近な情報機器やコンピュータシステムの仕組みなどの基礎知識を習得する。次に、Webやメールといった情報通信の基盤となるインターネットの基本的な仕組みについて知識を習得する。また、ITパスポート試験などの情報系資格試験の基礎的な範囲についての知識を習得する。	
表計算演習	表計算ソフトを用いて、グラフの作成、データ加工、データ分析などの技術を習得する。まず、表計算ソフトに用意されている様々な関数について理解し、使い方を習得する。次に、様々なデータ加工の手法について理解し、データを加工することで、説得力のある表やグラフの作成を行う。さらに、統計関数を用いて、データの検定等の手法を習得する。最後は、実際のデータを用いて、データの加工および分析を行い、報告書にまとめる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 サブメジャー科目 ICT	プレゼンテーション演習	プレゼンテーションに必要な基本技術の習得および演習を行う。まず、プレゼンテーションを行うために、資料収集、取材、対象者のニーズ調査を行い内容の組み立てを行う。次に、プレゼンテーション会場、時間や対象者に応じた提示資料および配布資料の作成を行う。さらに、プレゼンテーションにふさわしい言い回しや話し方などを習得する。最後に、作成した資料によりプレゼンテーションを行い、学生相互評価および改善点などについて討議を行う。	
	情報倫理と知的財産	現代の情報化社会における倫理・権利・財産に関わる諸問題を理解し、基本的な知識を身につける。(オムニバス方式/全15回) (32 中尾 剛/8回) 情報化社会におけるインターネットについて、現実起こっている影の部分の部分を十分に理解し、被害者にならないようにすることや、さらに他者への配慮を行い加害者にならないようにすることについて知識を習得する。また、今後の情報社会における情報倫理のあり方について考える。 (28 菅野昌史/7回) 情報化社会における知的財産(特許法、意匠法、商標法など)、著作権や肖像権について、保護しなければならない財産や権利など基本的な知識を習得する。さらに知的関連業務に携わる部署に配属されたときに役立つような知的財産権に関する知識を習得する。	オムニバス方式
	ICT基礎実習	ICT基礎の内容について、実習を通してICTについての理解を深める。コンピュータを分解して内部の構造を確認し、様々な情報機器の基本操作を行い、OSの違いや操作性、周辺機器との接続などを実験と通して確認する。また、実際にLANを構築するためのケーブルつくりやOSの設定、インターネットに接続するための機器や無線LANの設定などを行う。さらに、テストなどの基本的な計測機器の使い方を習得する。少人数グループに分かれて、各実験テーマを実施する。	
	ビジネスコンピューティング	ビジネス実務を効率的に行うためのコンピュータやソフトの利用方法などを習得する。まず、業務において、簡単な指示を受けて、独力で表作成ができる基礎的な実務知識および技能を修得する。次に、自己の判断で表作成やデータベース処理などを行い、その結果を資料として作成できる実務知識および応用技術を習得する。さらに、経営管理上の様々なニーズに対し、各種アプリケーションソフトを駆使して、経営に関わる問題解決や意思決定などに資することができる高度な知識および技能を修得する。	
	システム設計技法	システムを設計し運用するための手法について知識を習得する。システムの開発の過程を、要求分析、設計、製作、テスト、保守の段階に区切り、各段階での手法などについて学ぶ。特に、要求分析では抽象的な要求を分析し、実現方法を具体化する手法について学び、設計では流れ図などを使って、システムの流れを検証することができる技術を習得する。また、実際のシステムについて、流れ図の作成やテスト工程作成などを行う。	
	コンピュータシミュレーション	様々な事象についてコンピュータを用いてシミュレーションを行い、結果を算出する技術を習得する。まず、シミュレーションを行うために必要な数学と様々なアルゴリズムを学習する。つぎに、表計算ソフトを用いて、データからシミュレーションの結果を表示するシステムを作成する。さらに、身近な事例を挙げてシミュレーションを行い、パラメータを変えることで、算出される結果がどのように変化をしていくかを確認する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 サブメジャー科目 ICT	マルチメディア演習	音声、静止画像、アニメーションや動画などのマルチメディアデータをコンピュータで扱うための知識と技術を習得する。まず、音声、静止画像、動画などのマルチメディアデータの種類、それぞれの特徴（記録方式、圧縮方式）などの基本的な知識を習得する。次に、静止画像の編集、加工などの基礎技術を習得する。さらに、音声ファイルや動画の編集、加工などの基礎技術を習得する。最後に作品を制作して学生間で相互評価を行う。	
	コンピュータネットワーク	コンピュータネットワークの基本原則を理解し、通信技術がどのように活用されているかについて知識を習得する。まず、コンピュータネットワークの目的、アクセス制御方式やトポロジーなどのLANの基礎技術を学ぶ。つぎに、インターネットの基本原則、インターネットのサービス（電子メール、WWW、SNSなど）の技術などについて学ぶ。さらに、情報管理やセキュリティやインターネットの危険性やサイバー犯罪などの現状と対応方法について学ぶ。	
	データベース1	データベースの利用方法、関係表の設計、操作、設計方法の基礎を習得する。まず、既存のインターネット上にあるデータベースにアクセスして、検索などの基礎的な利用方法、複数の条件を組み合わせることで所要の情報に短時間でアクセスするための手法を習得する。次に、データベースを実際に設計するために必要な基礎知識を習得する。さらに、実際にデータベースソフトを用いて、データベースの具体的な設計・開発手順について習得する。	
	データベース2	多様な形態の電子情報を効果的・効率的に活用するためデータベース化に必要な知識と基礎技術を習得する。まず、様々な情報のデジタルデータ化の手法やデジタルデータの種類（テキスト・画像・音声・映像など）について知識の習得、およびデジタル化の演習を行う。つぎに、デジタルデータの分類、蓄積、組織化について知識を習得する。さらに、データベースソフトを用いて、デジタル化したデータをデータベースに登録し、検索できるシステムを構築する。	
	情報と言語教育	本サブメジャーを履修する者には将来、言語教育（英語教育・日本語教育）に携わろうとする者が少なくない。その教育の対象となる言語は、科学的な対象であり、情報の1つでもある。本科目では言語情報の特質を学び、言語情報を計量的に捉える方法を身につけ、言語情報を教育に応用できる能力を身につけることを目的とする。特に言語コーパスの種類や特性、コーパスの作り方、教育への活用方法などを学修する。	
	Webデザイン	Webページを構成するHTMLについて学習し、テキストエディタを用いて基本的なWebページを作成する技術を習得する。まず、HTMLでは基本的なタグ、入力フォームの作り方などを学習する。次に、CSSを用いてWebページのデザインを行い、様々なユーザに対して見やすいWebページのデザインについて考える。さらに、JavaScriptを用いて、Webページのユーザビリティの向上を行う。最後に、与えられたテーマにしたがってWebページを作成し、学生間でデザインやユーザビリティなどの相互評価を行う。	
	Web解析	Webアクセス解析、Webマーケティングに関する基礎知識を習得する。まず、Webマーケティング、Webアクセス解析を行う上で必要な基本的な用語および技術を学習する。つぎに、アクセス解析ツールなどを用いてWebアクセス解析を行い、得られる情報の認識、分析方法、計算方法などを学習する。さらに、Web解析による課題の発見方法と改善手段（事業成果に繋がる解析の考え方）について学習する。最後に、実際にWebサイトの解析を行い、結果から状況および改善案のプレゼンテーションを行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 サブメジャー科目 日本語・日本文化	日本語教育文法	<p>日本国内外で活躍できる日本語教師を養成するという観点から、日本語を捉えなおし、外国語教育の中のコミュニケーションの知識や規則として日本語文法の理解を深めることを目的とする。特に国文法と日本語文法の違い、文法の内省、文の構造と文型、テンスとアスペクト、モダリティ、ボライトネス、形容詞と連体修飾、日本語学習者の誤用と中間言語、日本語学習者の言語習得などを話題とする。</p>	
	人間文化概論	<p>人間の産み出してきたさまざまな文化形態を総合的に、「思想」という観点から捉え、人間文化を根本的に理解することに目標をおく。文学、宗教、民俗、映像、音楽などにおいて表現されている「ものの考え方」が人間の文化の基底に存することを、古代から現代にわたり、具体的諸事例に即して見定める。西洋の自然観・人間観と東洋、特に日本古来の自然観・人間観との対比を基軸にして、人間文化の諸局面における被制約性を、主として哲学的な視点から考察し、表現された文化の「意味」を読み解く。</p>	
	日本文化史	<p>日本文化を幅広く、さまざまな角度から総合的に学ぶ講義形式の授業である。原始から近現代までの日本社会における文化の特色と展開について理解し、それぞれの時代ごとの違いを踏まえて、その特色を説明できるようになることを目標とする。「文化」とは、文学・芸術・歴史・思想・宗教・芸能など幅広い分野が含まれる。こういった日本の文化とその特質を知ることによって、日本のアイデンティティを自覚し、世界に日本を正しく発信する力を養う。</p>	
	日本語表現法1	<p>日本語の読み・書きの能力を高めたい、と希望する学生に対し演習形式で行う授業である。日本語の特質を理解し、わかりやすい文章を書くための方法を学ぶことを目的とするが、もう一步進んで小説や評論、短歌や俳句の創作を行うことに本講義の特色がある。また、著名な作家の文章を読み、読解力に磨きをかけ、優れた文章とは何かを理解することができるようにする。授業ごとに課題を設け、受講者は時間内に課題を作成し提出する。担当者が採点したものを各自が踏まえ、よりよい文章が書けるようにする。</p>	
	日本語表現法2	<p>日本語表現法1を発展させ、より高い日本語の表現力が身につくようにする。卒業論文作成に向けて、資料の正しい引用方法、論理的文章の書き方などの、論文を書く際に必要な技術を身につけることも目標とする。図書館の本の紹介・商品のキャッチコピー作成など、様々な表現の方法について学ぶことも行う。授業ごとに課題を設け、受講者は時間内に課題を作成し提出する。担当者が採点したものを各自が踏まえ、よりよい文章が書けるようにする。</p>	
	日本語学習アドバイジング	<p>外国語学習者のために外国語学習（日本語や英語）を自律的にできるような教育環境の整備を考えたり、学習支援をするために必要な学習アドバイジングの知識を深めたりすることを目的とする。特に日本語教育における学習アドバイジングの事例や実践を紹介しながらその知識を身につけ、自らも外国語や様々な学習のアドバイザーになるためのトレーニングを行う。</p>	
	文化社会論	<p>日本の文化形成の一端を担ってきた文学とその受容のありかたを雑誌、新聞等の各種メディアとの関わりの中で考察すること、また、映画化、舞台化、翻訳などの過程を交えた分析を通し、各文学作品が発表された時代の社会との関わりの中で文学の持つ意義について修得することを目標とする。各時代あるいはテーマごとに文学作品を同時代状況と関わらせて講義を行い、受講者の理解度を毎回レポート等によって確認しながら進めていく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 サブメジャー科目 日本語・日本文化	現代日本文化論	現代はグローバル化の時代だといわれているが、日本人なら日本文化の独自性についてその概要だけは知っておく必要がある。なぜなら、いまでも日本人の多くは日本文化の洗礼を浴びながら成長し、みずからのアイデンティティを確立してきているからである。いやむしろ、あらゆるものが均等化、均質化してくるグローバル化の時代だからこそ、こういう視点が要求されているといえよう。本講義は、今日の日本において特徴的な文化現象や文化事象を再検討することで、現代日本の文化の特質について理解が深まるようにすることを目標とする。	
	日本文化文献講読	過去から現在までに培われた種々の日本の文化とそれを取りまく種々の事象が記された文献およびそこに言及された作品等をテキストとし、学生が日本の文化についての知識や教養を深め、それらを日本および世界に発信できる力を養うことを目標とする。個人発表またはグループ発表によって各回のテーマに沿ってそれらのテキストを読解、調査、考察し、プレゼンテーション・ディスカッションおよびレポート作成を通して演習を進めていく。	
	文章と論理	論理的な文章を書くための、また何かを「論ずる」ための基本的諸要件に関する講義である。論述を成り立たせる連関や論理展開に重心をおいた論文作成法、言葉・記号の使い方や表記法、さらには、論述特有の語彙や言い回しを含め、優れた論述文を書くための知識・技術を習得することに目標をおく。「論文」というものの本質（使命・役割・構造）についての、弁証法など哲学的な要素を交えた理解・認識の確立と、語句相互の繋がりへの意識に根ざした文章技術の陶冶とを、本講義内容の二本の柱とする。	
	日本語教育法1	日本国内外で活躍できる日本語教師を養成するという観点から、日本語教育に関する基礎的な知識を学び、日本語教育に必要な技術や能力を身につけることを目的とする。本科目では、特に日本国内外の日本語教育の現状と課題、日本語教育の内容と流れ、コースデザイン、教材・教具、教授法の変遷とその特徴などを専門的に学修する。授業形態は、グループ活動やピア・ラーニングが主となる。	
	日本語教育法2	日本国内外で活躍できる日本語教師を養成するという観点から、日本語教育に関する基礎的な知識を学び、日本語教育に必要な技術や能力を身につけることを目的とする。本科目では、特に会話の指導、文字表記の指導、語彙の指導、文法の指導、音声の指導、各種練習方法、能力別指導法、対象別指導法などを専門的に学修する。授業形態は、グループ活動やピア・ラーニングが主となる。	
	日本文化研究A	日本の文学状況において一つの転換を示す重要な時期に焦点を当て、それまでの文学状況を整理しつつ新たな文学潮流が台頭しやがてそれが定着していくさまを文学作品のみならず、同時代の歴史的、文化的コンテクストをふまえて整理し、各時代における文学の意味や価値を修得することを目標とする。近代以降の文学状況を対象とすることで近代日本の展開とともにある文学の姿を捉え、各時代における代表的な文学作品の読解および同時代状況の様相について毎回テーマに沿って講義を進めていく。	
	日本文化研究B	日本文化のなかでも20世紀の文化を中心に扱う。20世紀は文化史的に大きな転換点にあたり、機械文明や戦争の影響のもと、19世紀までの価値観や世界観が大きく変容していった時代である。巨視的にみれば、21世紀の文化は前世紀に興隆したこの新しい潮流の発展形であるといえる。したがって本講義は、今日の日本の文化状況を的確に捉えるため、その源である20世紀の日本文化について深く認識できるようにすることを教育目標とする。授業では、20世紀の代表的な表現メディアを題材に、外国との比較をまじえながら具体的に検証していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
日本語・日本文化 サブメジャー科目 教職 専門教育科目	日本語教育実習	日本語教育法1、2で培った日本語教育に関する基礎的かつ理論的な知識を踏まえて、日本語教育機関で実際の日本語教育実習を経験し、実践的な教育能力を身につけることを目的とする。本科目では、教育機関をいわき市の自治体の日本語ボランティア教室などと連携して日本語教育実習を行う。また、実習の事前と事後には実習のための教科書分析、教材教具の作成、実習の振り返りなどを行う。	
	教職論	「教員とは何か」「教員の専門性」「教職の魅力と責任」等を探りながら、教員としての力をどう備えるかを学んでいくことがねらいである。具体的には、第一に現在の教員に何が求められているか等基本的な内容を理解すること、第二に教員の職務内容を理解すること、第三に教員の専門性や教職の魅力と責任について理解を深めること、第四に教員の適格性を身につけるために何を努力すればよいか自己課題を知ることを取り上げる。授業を通して自己の進路選択について深く考え、併せて思考力、洞察力、分析力を身につけることをめざす。	
	教育心理学	心身の発達および学習過程を理解し、心理学の観点から幼児、児童および生徒についての理解を深めることを目的としている。発達、学習、動機づけ、知能・パーソナリティ、教育評価、学級集団などに関する基本的知識を学ぶとともに、いじめや不登校、知的障害や発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠陥・多動性障害、学習障害）などの教育上の特別な配慮を必要とする児童・生徒への理解や支援についても学習する。	
	教育方法論	教育の方法および技術等について、現代の教育改革・授業改革の流れに沿って幅広く学びながら、今後の教育や授業の工夫・改善のあり方自らの考えや具体的な方法を習得する。前半は授業改革の歴史的背景や具体的な授業実践等の検討から授業構成要素について理解する。後半は前半で学んだ知識やスキルを活用しながらコンピュータ等の情報機器を活用しながら学習教材の作成を行い、学習教材を活用しながら学習教材の意義や教材作成者側の視点などについて実践的に習得する。	
	教育相談	カウンセリング・心理療法の基礎理論を理解した上で、児童生徒に対する対応と援助に関する具体的な方法を学ぶ。特定の児童生徒に対しての相談活動だけではなく、日常の教科指導・生徒指導の中で教育相談的な姿勢で対応することの有効性を考える。まず、個別相談の対応方法を考える。次に、学級集団へ対応方法を検討する。さらに、特別な教育的ニーズを有する子どもの学校現場での指導について考える。体験的に理論を学習するとともに、ロールプレイを用いた新しい方法を学ぶ。	
	英語教育学概論	英語教育学を学ぶ意義を理解し、日本の小学校、中学校そして高等学校の英語教育に関わる様々な問題を、理論と実践の両面から考察するための基礎的な知識を習得することを目標とする。具体的には、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）の学習者中心の言語教育観と日本の英語教育の関連、学習指導要領の変遷、現行学習指導要領のねらい、小中高を見通した教育課程、言語習得と教授法、学習者論、教師論等のテーマを取り上げ、実際の授業を行う上での基礎的な理論的背景を習得する。	
	教育原理	受講者は教育学の初学者であることに留意し、また教職の「教育の基礎理論に関する科目」であることに留意し、教育原理の内容としての基本的・基礎的な知識の習得と、教職への意欲を高めることをねらいとする。平易に説明するために、学校教育の実践と先人の思想の関連づけを図りながら具体的に理解を図る。例えば、教育の考え方の説明においては教育実践の一場面を紹介し、先人の思想との関連づけを図る。教育の現状を考える契機として、歴史的視点での重要性も強調する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
サブメジャー科目 専門教育科目 教職	教育の制度と経営	我が国教育制度の構造と特質を明らかにしつつ、学校が公教育の目的の実現に向かって、組織としてまとまった活動を実施・展開することの重要性等を考察する。具体的には、我が国公教育制度の基本的枠組みと今日的課題、社会的環境の変化に伴う学校経営の課題、学校の組織編制と管理運営の仕組みと課題、組織マネジメントとリーダーシップの在り方、学校におけるPDCAサイクルの導入と「評価・公開」の在り方、地域人材の活用と学校経営への地域参画、予算と裁量権の拡大による自立的経営の課題等について講義する。	
	英語教材研究	英語のスキル別の教材の分析を行い、理想的な教材のあり方や効果的な活用法について、理論と実践の両面から研究することを目標とする。具体的な内容として、文部省検定教科書を含む英語の4技能を扱った教材の分析を技能別に行うこと、語彙・文法の観点からの分析等を含む。市販の教材を実際に分析することにより、様々な教材を客観的に様々な観点から評価できる力を養うと同時に、「教科書を教える」のではなく、「教科書で教える」視点を培うことを目的とする。	
	特別活動の指導法	特別活動はその目標に「望ましい集団活動を通して」とあるように、学級を単位とする集団や学級・学年の枠を超えた集団による活動をするところにその特徴がある。つまり、特活では実際の生活経験や体験経験による学習、「なすことによって学ぶ」(learning by doing) ことを通して、全人的な人間形成を図るという点が強調される。このことを達成するために特別活動の内容は学級活動、生徒会活動、学校行事となっている。特別活動の内容それぞれがもつ固有の価値について理解するように進める。	
	道徳教育の指導法	学習指導要領において、「道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものである」ことが明示されている。そこでまず、中学校学習指導要領「道徳」の目標や内容、および指導計画の作成、道徳の時間の指導の特性等について理解を深める。次に、実際に授業で使用する資料の分析・検討方法について理解させる。そして資料分析を基に発問を精選し、板書計画を盛り込んだ学習指導案作成ができるようにする。さらに、道徳的実践に結びつけるために教育活動全体を通じて行う指導のあり方、家庭や地域社会との連携の仕方等について理解を図る。	
	児童英語教育論	児童(小学生)英語教育について、その意義、目的、教授法、教材等の観点から多角的に学ぶ。具体的には、小学校英語教育導入の目的・意義の検証、過程の検証、子どもの英語習得、発達教育と児童英語教育学、言語技能別習得、海外における児童英語教育、教材論、Team Teaching、目標設定、学習行動論、異文化理解、学習指導計画案等のテーマを取り上げ、小学校における英語教育について、理論と実践を踏まえた上で、体系的に理解を深め、実際に授業を行うことができる力を育成する。	
	生徒・進路指導論	中学校・高等学校の教員として生徒理解を深め、的確な指導ができる資質・能力を習得することを目的としている。生徒指導については、「生徒指導提要」などを活用しながら意義を学び、いじめや不登校などといった問題への対応、不適応行動についての指導法、部活動の意義や在り方などについて学ぶ。また、進路指導については、学習指導要領(学級活動)に示す進路指導のあり方について学習し、キャリア教育の視点から進路指導計画・進路指導の組織とその運営についても理解する。	
	教育課程論	教育課程という語はきわめて多様に使われている。歴史的に見ても学校が社会の中で果たす役割や機能の変化につれてその意味は変遷をみせている。現在の意味内容も実態もまた多様である。およそ教育が意図的、組織的で継続的に行われているところでは、教育は「誰に」対して、「誰が」働きかけるのか、それは「何の目的のために」「何を媒介としてどんな内容で」「どんな技術を駆使して」その目的を達成にするのか、そしてそれを支える行政・制度はいかなるものかといった中等教育課程の機能や諸問題について理解できるようにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 サブメジャー科目 教職	英語科教育法1	日本の中学校や高等学校における英語教育を中心に、英語教師として必要とされる知識と技能を、学習指導要領の内容を理解した上で、理論と実践の両面から研究することを目標とする。前半は理論的な内容に焦点を置き、後半は教育実習の準備となる内容も組み入れていく。具体的に取り上げる内容として、コミュニケーション能力、国際理解教育、英語の4技能の指導法、発音指導、文法指導、中学校での指導、高等学校での指導、指導案の作成、模擬授業の実践などが挙げられる。	
	英語科教育法2	日本の中学校や高等学校における英語教育を中心に、英語教師として必要とされる知識と技術を、学習指導要領の内容を理解した上で、理論と実践の両面から研究することを目標とする。本授業では特に実践面での内容に重点を置く。具体的に取り上げる内容として、教育実習の準備、教育実習の振り返り、小学校での英語教育の現状、日本の英語教育が抱える問題点、英語教師の研修、小・中・高・大の連携などが挙げられ、教育実習を経験した学生に対し、広い視点から英語教育を考える機会を与えることを目的とする。	
	教育実習A	教育実習においてこれまで学んだことを実証的に検証し、机上では得られない教師としての能力や力量を育成することがねらいである。具体的には、事前指導として教育実習の意義や内容についての理解を深めるとともに、学習指導案の作成、模擬授業による授業実践、模擬授業の相互評価などを実施する。また、教育実習の事後指導として、実習中の成果や課題を整理・共有し、中学校・高等学校の教員となるための資質・能力の向上を目指す。	共同
	教育実習B	教育実習の直前指導を通し、教育実習に自信をもって臨めるようにするための授業である。そのために、指導案作成・模擬授業による授業実践・模擬授業の相互評価などを実施する。また、教育実習の事後指導として実習中の各々の収穫や課題を整理・共有し、高等学校の教員になるための資質・能力を習得する。	共同
	教職実践演習（中・高）	教職課程全体を通じた教職指導と教育実習等で体得した教育実践力の統合を図り、少人数の演習できめ細かな指導を行うことで、教員としての使命感・責任感、教育的愛情をもって学級経営、教科指導、生徒指導等を実践できる資質・能力を形成することがねらいである。模擬授業、ロールプレイング、事例研究、グループディスカッション、また教育委員会・学校と連携したフィールドワークや現職・前教員の講義も取り入れた主体的で実践的な授業の成立を図っていく。また、個々人の履修カルテや学校種に応じて、本授業目的達成のための補完的な個別指導も実施する。	共同